

**平成 30（2018）年度
AIIT シニアスタートアッププログラム**

事業成果報告書

平成 31 年 3 月
公立大学法人首都大学東京
産業技術大学院大学

はじめに

世界中で経験したことがない超高齢化国家である我が国は、大きな転換期を迎えています。

こうした中、人生100年時代を豊かに過ごせる生涯現役都市となるための実践として、産業技術大学院大学(AIIT)は、「AIIT シニアスタートアッププログラム」を平成30年8月に開講しました。

起業に挑戦するシニア層の方を後押しし、起業に必要とされる高いレベルの知識及びスキルを短時間で修得することを目指すプログラムにより新たな学びの場を提供することができました。多様な経験を有する極めて熱心な33名の方が受講し、基礎科目、事例研究型科目、PBL型科目に合格した26名の方が修了されました。

産業技術大学院大学は、専門職大学院として、広く横断的な視野で問題解決できるコンピテンシー(業務遂行能力)を身につけるためPBL(Project Based Learning)型教育を導入しています。平成30年度は、「八丈島における地域ビジネスを考える」をテーマとしてPBLに取り組みました。2泊3日の合宿を行い八丈町役場の議会場をお借りしてワークショップを行い、地域ビジネスの提案を行いました。3月には、公益財団法人東京都中小企業振興公社のご協力を通じて、東京創業ステーションにて成果発表会ならびに修了式を行いました。

なお、平成31年4月より学校教育法105条関連規則の改正により、履修証明プログラムの総時間の要件が120時間から60時間へ引き下げられ、本プログラムは履修証明プログラムとなり、学校教育法に基づいた修了証明書が発行できるようになりました。この5月には短時間で編成される「職業実践力育成プログラム」(BP:Brush up Program for professional)として文部科学大臣に認定され、来年度から適用される予定です。国の政策の後押しもあり、受講生にも一層の魅力向上を図り、社会人やシニア層の多様なニーズに応えることが求められています。

本プログラムの実施にあたりまして、東京都、品川区、八丈町と産業界のご協力をいただきましたことに対して、深く感謝いたします。

平成31年5月

板倉 宏昭

目次

1	事業の概要	6
1.1	事業の目的・概要.....	6
1.2	事業の意義・必要性.....	6
1.3	事業の体制.....	7
1.4	産学公の連携.....	7
1.5	平成30年度事業の成果.....	8
2	活動報告(平成30年度)	10
2.1	運営会議.....	10
2.1.1	運営(準備)会議#1.....	10
2.1.2	運営(準備)会議#2.....	10
2.1.3	運営(準備)会議#3.....	11
2.1.4	運営(準備)会議#4.....	11
2.1.5	運営会議#5.....	12
2.1.6	運営会議#6.....	12
2.1.7	運営会議#7.....	13
2.1.8	学内定例会議#8.....	14
2.1.9	学内定例会議#9.....	14
2.1.10	学内定例会議#10.....	15
2.1.11	学内定例会議#11.....	15
2.1.12	学内定例会議#12.....	16
2.1.13	学内定例会議#13.....	17
2.1.14	学内定例会議#14.....	17
2.1.15	学内定例会議#15.....	18
2.1.16	学内定例会議#16.....	18
2.1.17	学内定例会議#17.....	19
2.1.18	学内定例会議#18.....	19
2.1.19	学内定例会議#19.....	20
2.1.20	学内定例会議#20.....	20
2.2	第1回開講記念講演会.....	22
2.2.1	第1回開講記念講演会次第.....	22
2.2.2	基調講演.....	24

2.2.3	産業技術大学院大学における取組	25
2.3	第2回開講記念講演会	26
2.3.1	第2回開講記念講演会次第	26
2.3.2	基調講演	27
2.3.3	AIIT シニアスタートアッププログラム説明会	28
2.4	PBL キャンプ	29
3	成果報告(平成30年度)	31
3.1	教育プログラム(カリキュラム及び教材開発)	31
3.1.1	修得すべき能力	31
3.1.2	教育内容(授業科目等)、教育方法	31
3.1.3	授業期間	36
3.1.4	履修資格	36
3.1.5	成績評価方法・基準	37
3.1.6	修了要件	37
3.1.7	担当教員	38
3.2	当教育プログラム運用状況	39
3.2.1	オリエンテーション	39
3.2.2	東京経済事情	40
3.2.3	経営戦略要論	41
3.2.4	マーケティング要論	42
3.2.5	ファイナンス要論	43
3.2.6	IT イノベーション要論	44
3.2.7	事業デザイン要論	45
3.2.8	シニアスタートアップ特論	46
3.2.9	プログラム運用結果	47
3.2.10	PBL 成果発表会	47
3.2.11	PBL 成果発表会及び修了式次第	48
3.3	修了アンケート結果	53
付録	54
4.1	平成30年度シラバス	55
4.2	平成30年度募集要項	69
4.3	平成30年度時間割	84
4.4	第1回記念講演会パンフレット	85

4.5	第2回記念講演会パンフレット	86
4.6	PBL 発表会及び修了式パンフレット	87

1 事業の概要

1.1 事業の目的・概要

少子高齢化が進展する我が国及び先進諸国の中で、今後、我が国の経済が持続的成長を確保する為には、これまで成長を支えてきた各企業の定年退職者層及び予備軍(以下「シニア」)を、起業という選択肢と向き合い、果敢に挑戦する高度人材として育成することが不可欠である。特に、社会人の学び直しによる高度人材育成を特色とした「専門職大学院」である本学が、高齢化先進都市である東京都において、生涯教育モデルを提示することに意義がある。このため、当プログラムでは、大学院、東京都、産業界等が協働して、シニアを対象に、起業に必要とされる高いレベルの知識・スキルを短期間で修得できる大学院プログラムを開発・構築し普及する取組によって、シニア人材養成を図るとともに、大学院教育(修士課程レベル)でのシニア学び直しを推進する。

1.2 事業の意義・必要性

本プログラムは、起業家(アントレプレナー、イントレプレナー)や中小企業の事業承継を目指す者を受講対象としており、現実の起業・創業や、事業承継のニーズに応えることを目的としている。我が国企業数の大多数を占め経済を下支えしてきた中小企業の活性化につき、その新規創業や新事業創造に向けた起業家の教育、スムーズな事業承継や新事業展開には、成長基盤育成と共に日本経済の成長・発展にもかかる課題が多く残されている。特に、「『日本再興戦略』改訂 2014(新成長戦略)」では、開業率の倍増計画が掲げられ、新規創業や新事業創造の担い手となる起業家の教育が大きな課題となり、その担い手としてのシニア層への起業教育は、高齢化社会進展に伴う雇用創出の側面からも重要と考えられる。本講座は、起業に必要な基礎的な知識・スキルを学んだ後に、不確実性高まる社会環境において、どのようなビジネスモデルが求められるか等、東京都並びに産業界と連携した実践事例を取り扱うことで、起業や事業承継を目指すシニア受講生のニーズに応える内容のプログラムであり、中小企業の活性化に寄与するものである。

また、本プログラムは、起業・創業にかかるビジネスモデルの題材として、地域に根差した課題を取り扱うこととしており、地域活性化にも寄与するものである。「日本再興戦略2016」においても重要課題と位置づけられた地方創生については、国内構造的課題である少子高齢化と地域経済縮小化克服のためのイノベーション創造が求められており、起業家に対しても、その役割貢献が期待される処である。本プログラムは、東京都、(公財)東京都中小企業振興公社等との協力体制のもとに実施することで、地域の活性化に関連する題材を扱い、ビジネスモデルを構築するという演習型の科目を含む。受講生が地域課題に真摯に向き合い、本講座で獲得した知識を活用して新規ビジネス

創出に取り組み、その成果を発表することで地域に新たな知見を提供するのみならず、修了後において現実に地域に根差した起業・創業を行うこととなれば、地域振興としての効果も一層期待される処である。

1.3 事業の体制

本プログラムでは、「AIIT シニアスタートアップ運営委員会」を設置し、事業推進体制を構築した上で、事業を推進している。協議の場としての運営委員会は以下の役割等を担当し、年間 12 回程度開催する。

- 当事業の運営統括(計画・進捗・成果の確認等)
- カリキュラム、授業科目の内容に関する議論
- プログラムの仕組みに関する議論
- シニアの学び直しのための環境に関する議論

表 1: AIIT シニアスタートアップ運営委員会 委員名簿

団体名	職名	氏名	備考
産業技術大学院大学	学長	川田 誠一	アドバイザー
産業技術大学院大学	情報アーキテクチャ専攻 教授	板倉 宏昭	委員長
産業技術大学院大学	産業技術研究科長 創造技術専攻 教授	國澤 好衛	委員
産業技術大学院大学	OPI 長 創造技術専攻 教授	海老澤 伸樹	委員
産業技術大学院大学	情報アーキテクチャ専攻 特任教授	亀井 省吾	委員
産業技術大学院大学	管理部長	榎園 弘	委員

1.4 産学公の連携

当事業での産学公連携(支援内容等)を以下に示す。

- 授業への実務家講師派遣
- 実証授業への参加を通じた専門的知見の提供
- 地域における現状の課題、成功事例・失敗事例・ノウハウの提供、調査
- 授業、イベントへの施設提供
- シニア受講生の募集

《産学連携の実績》

本学では、以下に示す運営諮問会議、OPI 等の活動により、産学連携を積極的に行ってきた。

- 〈運営諮問会議〉

本学では、産業界のニーズを把握し、教育内容に反映したり、また産業界と連携して教育研究を効果的に実践したりするために、本学が人材育成を行う産業分野の専門家、企業の経営者等の学外委員から構成される運営諮問会議を本学開学の 2006 年から設置している。運営諮問会議からは、産業界からみた本学の教育研究体制、運営体制、本学教育カリキュラムの妥当性、修了生のキャリアパス、教員の研修、PBL プロジェクトの共同実施等の本学教育運営体制に関する広範な課題等に関する答申が提出される。提出された答申は、本学の中期計画、年度計画に反映されている。

- 〈OPI(オープンインスティテュート)〉

本学 OPI は、本学の教育研究成果を広く社会に還元するとともに、地域・産業界のニーズにタイムリーに応じたカリキュラムを提供する場として、また、地域・産業界との交流の場として設置された組織である。また、地域の企業が自社の研究所を OPI に開設し、社員・学生・大学教員等から構成されるプロジェクトを結成して研究開発を行う活動も行っている。

これらの取り組みから、本学では産学連携が行われる環境が整っている。これらの体制・実績から、当事業で設置する協議の場としての運営会議には、社会人学び直しと、事業創出に関する経験を重視し、委員を決定している。また、実証授業への参加、実務家教員の派遣、受講生募集では、東京都との連携に加え、運営諮問会議等の本学と各種の産学連携を行っている企業にも協力を依頼している処である。

1.5 平成30年度事業の成果

平成30年度は、PBL 型科目等の教材・地域の調査・開発と、開発した教育プログラム(カリキュラム、教材)にしたがって、実際に教育プログラム(大学院修士課程レベル)の運用を行う。PBL 及び事例研究の教育効果を高めるため、産業界から講師(専門家)を招聘して、集中型の PBL キャンプを開催する。また事業成果(進捗)報告等は、PBL 成果発表会開催、報告書で行う。当事業の成果を以下に示す。

- 「シニア起業家養成」教育プログラムの開発(カリキュラム、講義演習型 5 科目、事例研究型科目、PBL 型科目の教材、地域事例の調査、開発等)と運用

- PBL キャンプ(4 日間)
- 運営委員会開催 20 回
- PBL 成果発表会開催 1 回
- 事業成果報告書作成と配布(連携公共機関、関係教育機関、企業等)

2 活動報告（平成 30 年度）

2.1 運営会議

2.1.1 運営（準備）会議#1

- 日時：2018/01/30(火) 13:30-14:30
- 場所：産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任准教授
- 次第
 - 本プログラム概要の件
 - 教育内容の件
 - プログラム推進委員会委員候補の件
 - 第1回開講記念講演会の件
 - ロードマップの件

2.1.2 運営（準備）会議#2

- 日時：2018/02/27(火) 13:30-15:00
- 場所：産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任准教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - プログラム概要について

- 記念講演実施の件
- 基礎5科目受講料の件
- オリエンテーションの件
- ロードマップ

2.1.3 運営（準備）会議#3

- 日時: 2018/03/14(水) 14:00-16:00
- 場所: 産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任准教授
 - 川田尚吾客員教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - 記念講演会及びプログラム全般について
 - プログラム概要について
 - 八丈島(PBL キャンプ候補地)視察の件
 - AIIT 起業塾#11 記事への記念講演会案内掲載について
 - 記念講演会パンフレット及びプレス案について
 - 東京経済事情招聘ゲスト講師について
 - プログラム開発委員選任について
 - 受講生関連事項の件について

2.1.4 運営（準備）会議#4

- 日時: 2018/03/26(月) 15:30-17:00
- 場所: 産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 海老澤 OPI 長

- 板倉教授
- 亀井特任准教授
- 次第
 - 第1回記念講演会チラシについて
 - 東京経済事情ゲスト講師について
 - 第1回記念講演会ブース対応について
 - 第2回記念講演会講演者について

2.1.5 運営会議#5

- 日時: 2018/04/04(水) 15:00-16:30
- 場所: 産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任准教授
 - 榎園管理部長
- 次第

(報告)

 - 第1回記念講演会チラシ配布先の件
 - チラシ(プログラム面)の件
 - 「広報東京都」告知について
 - 基礎科目・事例研究シラバスの件

(審議)

 - 第2回記念講演会講師の件
 - 受講料設定の件
 - ロードマップの件

2.1.6 運営会議#6

- 日時: 2018/04/17(火) 11:00-12:15
- 場所: 産業技術大学院大学 265 室

- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)
 - 基礎講義シラバスの件(IT イノベーション、東京経済事情)
 - 実施要項、募集要項、応募スケジュールの件
 - 受講料の件
 - その他
 - (審議)
 - 第2回記念講演会講師の件
 - 第1回記念講演会アンケート実施、相談対応の件
 - オリエンテーションの件

2.1.7 運営会議#7

- 日時: 2018/04/24(火) 13:00-14:30
- 場所: 産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)
 - 第1回講演会配布チラシ(プログラム)について
 - 受講料の件
 - その他

(審議)

- 受講者募集の件

2.1.8 学内定例会議#8

- 日時: 2018/05/08(火) 15:00-16:30
- 場所: 産業技術大学院大学 269 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)
 - 第1回講演会アンケート結果集計の件
 - 第1回講演会相談会報告の件
 - 第2回講演会式次第の件
 - 受講料の件
 - その他
 - (審議)
 - 募集要項の件

2.1.9 学内定例会議#9

- 日時: 2018/05/22(火) 13:00-14:00
- 場所: 産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授

- 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)
 - シラバスの件
 - 第2回講演会アンケートの件
 - その他
 - (審議)
 - 募集要項の件
 - WEB 調査実施の件

2.1.10 学内定例会議#10

- 日時: 2018/06/05(火) 13:00-14:00
- 場所: 産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)
 - シラバスの件
 - 第2回講演会アンケートの件
 - 基礎5科目・事例研究型授業日程・場所一覧
 - 募集要項の件
 - その他
 - (審議)
 - WEB 調査実施の件

2.1.11 学内定例会議#11

- 日時: 2018/06/12(火) 13:00-14:00

- 場所: 産業技術大学院大学 308 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (審議)
 - 募集要項の件
 - 第2回講演会相談会対応

2.1.12 学内定例会議#12

- 日時: 2018/06/26(火) 13:00-14:30
- 場所: 産業技術大学院大学 351b 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)
 - 第2回講演会・相談会アンケート結果の件
 - その他
 - (審議)
 - 選考試験実施体制の件
 - 合否選考会議の件
 - PBL キャンプスケジュールの件

2.1.13 学内定例会議#13

- 日時: 2018/07/10(火) 17:00-17:40
- 場所: 産業技術大学院大学 351b 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
(報告)
 - 「AIIT シニアスタートアッププログラム」出願状況について
 - 「AIIT シニアスタートアッププログラム」受講者募集状況に対する対策について
 - 社会人向けの起業プログラムの受容性調査について

2.1.14 学内定例会議#14

- 日時: 2018/07/24(火) 17:00-18:00
- 場所: 産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
(報告)
 - 募集状況の件
 - オリエンテーション開催の件
(審議)
 - 選考試験、採点及び判定の件

2.1.15 学内定例会議#15

- 日時: 2018/10/02(火) 14:00-15:00
- 場所: 産業技術大学院大学 258 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)
 - 授業評価アンケート結果(基礎科目)
 - プログラム今後の予定
 - 八丈島 PBL キャンプの申込について
 - (審議)
 - 基礎科目の合否判定
 - 事例研究型科目の受講選考

2.1.16 学内定例会議#16

- 日時: 2018/11/13(火) 10:30-11:30
- 場所: 産業技術大学院大学 258 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)

- 授業評価アンケート結果(事例研究型科目)
 - プログラム今後の予定
 - 中小企業振興公社との連携・協力(経過報告)
- (審議)
- 事例研究型科目の合否判定
 - PBL 型科目の受講選考
 - PBL 型科目の中間レビュー及び最終成果発表について

2.1.17 学内定例会議#17

- 日時: 2019/02/07(木) 15:30-16:30
- 場所: 産業技術大学院大学 258 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 國澤研究科長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第

(報告)

 - PBL 型科目の中間レビュー実施について
 - プログラム今後の予定

(審議)

 - PBL 型科目の合否判定について
 - PBL 成果発表会及び修了式について
 - 平成 31 年度アドバンスプログラムについて

2.1.18 学内定例会議#18

- 日時: 2019/02/26(火) 16:30-17:00
- 場所: 産業技術大学院大学 258 室
- 出席者
 - 川田学長

- 國澤研究科長
- 海老澤 OPI 長
- 板倉教授
- 亀井特任教授
- 榎園管理部長
- 次第
 - (報告)
 - 基礎科目・事業研究型科目授業評価アンケート集計結果
 - 修了アンケート実施について
 - 職業実践力育成プログラム(BP)への申請について
 - (審議)
 - 基礎科目(必修)「東京経済事情」の合否判定
 - 平成 31 年度ロードマップ大枠
 - 平成 31 年度担当講師
 - メールアカウント、manaba、講義支援の受講生使用可能期間について

2.1.19 学内定例会議#19

- 日時: 2019/03/09(土) 15:40-16:00
- 場所: Startup Hub Tokyo, Tokyo 創業ステーション1F
- 出席者
 - 川田学長
 - 海老澤 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 榎園管理部長
- 次第
 - (審議)
 - PBL 型科目の合否判定

2.1.20 学内定例会議#20

- 日時: 2019/03/19(火) 13:30-14:00
- 場所: 産業技術大学院大学 258 室
- 出席者

- 川田学長
- 國澤研究科長
- 海老澤 OPI 長
- 板倉教授
- 亀井特任教授
- 榎園管理部長

(報告)

- PBL 成果発表会及び修了式の実施
- PBL 成果発表会及び修了式来場者アンケート集計結果
- 修了アンケート集計結果

- 次第

(審議)

- 平成 31 年度ロードマップ

2.2 第1回開講記念講演会

2.2.1 第1回開講記念講演会次第

- 日時:2018/04/28(土) 13:30-17:30
- 場所:産業技術大学院大学 433 教室
- スケジュール
 - 13:30-13:45 開会挨拶 川田 誠一 氏 (産業技術大学院大学 学長)
 - 13:45-14:45 基調講演 川田 尚吾 氏 (投資家/株式会社ディー・エヌ・エー 顧問)
 - 14:45-15:30 特別講演 今井 武 氏 (株式会社アマネク・テレマティクスデザイン創業者
CEO/自動車技術会フェロー)
 - 15:45-16:45 パネルディスカッション
 - ① 澳 敬夫 氏 (農業生産法人オキオリーブ代表)
 - ② 木村 幹夫 氏 (株式会社トーラス代表取締役
(モデレーター))
 - 板倉 宏昭 氏 (産業技術大学院大学 教授)
 - 16:45-17:00 産業技術大学院大学における取組
 - 板倉 宏昭 氏 (産業技術大学院大学 教授)

- 会場の模様



2.2.2 基調講演

- 講師: 川田 尚吾 氏 (投資家/株式会社ディー・エヌ・エー 顧問)
- タイトル: 「スタートアップの実際」
- 講演内容: 以下、資料抜粋

スタートアップの実際

Shogo Kawada, Ph.D

技 x 資

ITによるイノベーションのポイントは4つ

- 革命的なユーザー体験の変化
- スピード
- 裏側の工夫
- Execution Excellence

Amazon.comによるユーザー体験の革命

項目	以前	以降
待ち時間	14日	2日 (-76%)
ユーザー稼働時間	25分	1分 (-96%)

Amazon以前: 本屋に行く(5分), 本を探す/注文(10分), 本屋に届く(2週間), 本屋に取りに行く(5分), 本屋を持って帰る(5分)

Amazon以降: Amazonにアクセス(1秒), 本を検索/購入(1分), 家に届く(2日)

Kindleは誕生から約3年でAmazonにおける販売数で紙書籍を超えた

米国Amazon.comにおけるペーパーバックのKindle/紙比率の変化

ハードカバー: 2007 7-9月 (Kindle販売開始直前) 紙 100%, 2010 4-6月 紙 36%, Kindle 64%

ペーパーバック: 2007 7-9月 (Kindle販売開始直前) 紙 100%, 2010 10-12月 紙 47%, Kindle 53%

人 お金 日本のスタートアップの資金調達イメージ*

	出資者	時価総額	調達額
設立	創業者	原価	なし
シード	エンジェル, アクセラレーター	¥1億前後-数億 or 転換社債	¥数千万
シリーズA	VC	¥10億-	¥数億
シリーズB	VC, 事業会社	¥数十億-	¥数億-数十億

Exit!

*あくまでイメージで実際は個社ごと、市況で異なる

資本主義

技術革新

人

お金

2.2.3 産業技術大学院大学における取組

- 発表者:板倉 宏昭 氏 (産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻 教授)
- 発表内容:以下、資料抜粋

産業技術大学院大学

AIITシニアスタートアップ プログラム概要

公立大学法人 首都大学東京
産業技術大学院大学
板倉宏昭

本プログラム概要

- シニア起業人材養成のためのスタートアップ大学院プログラム
 - 当プログラムでは、**大学院、東京都、産業界等**が協働して、**シニア**を対象に、起業に必要とされる高いレベルの知識・スキルが修得できる大学院プログラムを開発・構築し普及する取組によって、シニア人材養成を図るとともに、**大学院教育（修士課程レベル）でのシニア学び直し**を推進します。
- 《目指す人材像》
 - アントレプレナー（起業家）
 - イントレプレナー（企業内起業家）
 - ファミリービジネス第二創業（事業承継者）

カリキュラム概要

カリキュラム概要

①シニア起業希望者を増やすための取組 ②シニア起業準備者が起業家になるための取組

4～7月 イベント 募集

8～9月 講義・演習型科目 5科目(各8回) 講義・演習型科目

10～11月 事例研究型科目 1科目(8回) 事例研究型科目

12～2月 PBL型科目 1科目(8回) PBL型科目

8～9月 講義・演習型科目 3科目選択(定員各科目20名)……………☆シニア起業に必要とされる知識・スキルの修得・定着

10～11月 事例研究型科目 1科目(定員20名)……………☆シニア起業に必要とされる事業開発手法の修得

12～2月 PBL型科目 1科目(定員10名)……………☆キャンパス形式のアイデアソン・ハッカソン
☆東京都の現状から問題を設定し、課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

※応募状況により、定員を増やす場合があります。

シニア起業のための高度人材養成プログラム

- シニア起業家
 - 起業という選択肢と向き合い、果敢に挑戦するシニア高度人材

- ◆ 基礎科目……………必修科目を含め、3科目選択
 - ・東京経済事情(必修) ※8～2月に開講
 - ・経営戦略要論
 - ・ファイナンス要論
 - ・マーケティング要論
 - ・ITイノベーション要論
 ※8～9月に開講
- ◆ 事例研究型科目……………基礎科目受講者から選考
 - ・事業デザイン要論
- ◆ PBL型科目……………事例研究型科目受講者から選考
 - ・シニア起業PBL

2018(平成30)年 8月開講
募集要項 6月下旬 配布(予定)

シニアスタートアッププログラム「シニア起業家」養成

AIITシニアスタートアップ プログラム 開講記念 第2回講演会

2018年6月16日(土) 13:00～
産業技術大学院大学にて開催

※ 詳しくは、本学ホームページで

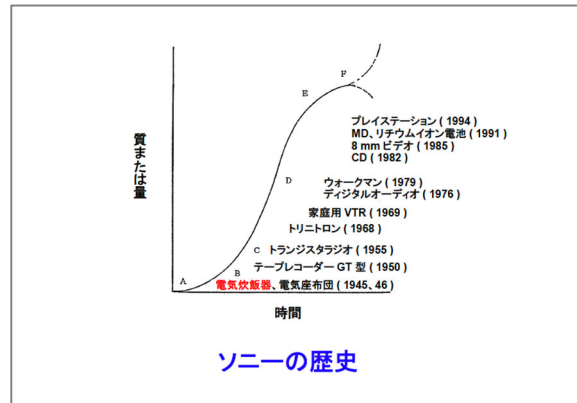
2.3 第2回開講記念講演会

2.3.1 第2回開講記念講演会次第

- 日時:2018/06/16(土) 13:00-16:00
- 場所:産業技術大学院大学 433 教室
- スケジュール
 - 13:00-13:15 開会挨拶 川田 誠一 氏 (産業技術大学院大学 学長)
 - 13:45-14:45 基調講演 西 美緒 氏 (産業技術大学院大学客員教授/元ソニー(株) 上席
常務)
 - 14:30-15:45 本学修了生による事業事例とパネルディスカッション
 - ① 上村 隆幸 氏 (インキュベクス株式会社 代表取締役)
 - ② 佐々木 胤重 氏 (CompanySasaki (ラオス) 代表取締役)
 - ③ 堀 貴史 氏 (リープ株式会社 代表取締役)
 - ④ 中川 達生 氏 (株式会社 ROX 代表取締役)
(モデレーター)
 - 海老澤 伸樹 氏 (産業技術大学院大学 教授(OPI 長))
 - 15:45-16:00 AIIT シニアスター トアッププログラム説明会
板倉 宏昭 氏 (産業技術大学院大学 教授)

2.3.2 基調講演

- 西 美緒 氏 (産業技術大学院大学客員教授 / 元ソニー (株) 上席常務)
- タイトル: 「企業における R&D はどうあるべきか」
- 講演内容: 以下、資料抜粋



研究開発とは

- 成功は失敗のもと
- ロータリー・スイッチ型の研究者
- 研究開発はジョーズ
- 発明発見は棚からぼた餅
- 知的エンゲル係数


ソニーの技術経営 (盛田昭夫)

「エンジニアが尊敬・尊重されない社会にはいい産業は生まれない」

技術によって材料に付加価値を与えるのが製造業であり、これが経済の原動力である


そのためにはエンジニアを大切にしなければいけない
弁護士や MBA と同じように尊敬される社会にならないといけない

エンジニアはあとで経営を学ぶことができるけれども、
経営者はあとでエンジニアリングを学ぶことができない



新技術開発の問題点

- Death Valley の問題
- 開発効率の低下
- 技術の短命化
1950 年代 ~ 21.8 年, 60 年代 ~ 16.8 年, 70 年代 ~ 10.2 年, 80 年代 ~ 6.5 年, 90 年代 ~ 3.2 年
- 技術的参入障壁を高くする必要がある
- IPR の確保
- ノウハウの流出防止
- トレンドを掴む
- 基礎研究か開発研究か
- 技術者のモチベーション
広く浅く or 狭く深く
- プロセスの重要性



Convincing Power

- 「止の谷」に対しては、「説得力」で。
→ Walkman, Play Station など
- 説得するのに有効なデータを早く取る。
- 「強い者が勝つのではなく、勝った者が強いのだ (先代 貴ノ花)」 → 何が勝てるのか?



2.3.3 AIIT シニアスタートアッププログラム説明会

- 発表者:板倉 宏昭 氏 (産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻 教授)
- 発表内容:以下、資料抜粋

産業技術大学院大学

AIITシニアスタートアッププログラム概要

公立大学法人 首都大学東京
産業技術大学院大学
板倉宏昭



社会人学生のための日本最高水準の修学の仕組み

※ 情報アーキテクチャ専攻の90%以上は社会人学生

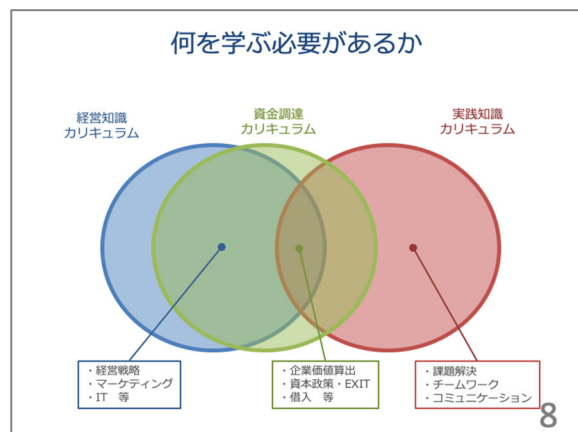
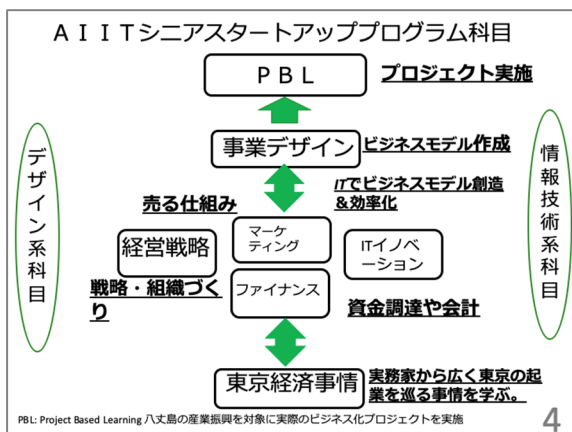
仕事と修学の両立を実現する仕組みの例

- ・平日夜間・土曜昼間の授業開講
- ・授業動画のインターネット配信 (Pad・iPhone対応)
- ・各自のライフスタイルに応じた修学パターンへの支援
- ・厚生労働省 専門実践教育訓練 指定講座 (最大60%給付)

各種のイベント

新しい分野に触れる機会として、正統的な企業研修以外に年間200程度のイベントを開催しています。学内外から年間1,000名以上のご参加をいただいています。

平日夜間・土曜昼間の授業 授業は平日夜間 (18:30-21:40)、土曜昼間 (9:00-18:00) に開講しています。授業動画の配信で、土曜だけの受講が可能です。	4学期制 (通学クォータ制) 各科目は、短期集中して開講されます。授業は2学期制とし、8週間で構成されています。時間に余裕がある時期に集中的に修学できます。	授業動画のインターネット配信 すべての授業は録画され、インターネット経由で、いつでもどこでも視聴できます。終了後、10日間最新の授業動画を無料で視聴し、学習が可能です。	授業原サテライトキャンパス 8校原原 電気街口 徒歩1分の校舎原サテライトキャンパス(大で通関)によるライブ授業が受講できます。原キャンパスは専用設備で結ばれ、対話的に質問・議論が可能です。
単位のバリエーション 入学前、開校の必修科目1科目単位で修得する卒業制度です。修得単位相当の授業料は、正課入学者の授業料が減免されますので、長期の学修の経済性を軽減できます。	長期履修制度 2学期の授業料で、最長3年間で開催可能な制度です。単位バリエーションを活用すれば、最長8年かけての修学が可能です。	元来の学修環境 情報LAN、AC・USB電源、クラウド・ストレージ等の学修環境が整備されています。最新の専門書が揃った図書室は平日は23時まで利用できます。	経済力の負担軽減 奨学金 (給付型、貸付型)、授業料減免等の制度が利用できます。当専攻は、厚生労働省の専門実践教育訓練の指定講座で、入学料・授業料の減免60%が適用されます。




東京経済事情 (必修)

> 講義概要
活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、広く東京の経済事情を学ぶ。各界マネジメントのパースペクティブから捉えられた現状から、受講生各人が起業を考えるに当たり、どのような未来を描き、どのような課題を解決していきたいのかを考えるヒントを得ていくことを目的としている。

> 開講日程 (予定)
9月~2月 (合計8コマ、12時間)。
予定: 水曜日・6時限目
オムニバス形式

> 初回講師: 島田晴雄
公立大学法人・首都大学東京理事長
慶應義塾大学名誉教授

9月5日 (水曜日) 18時30分~20時



PBL(Project Based Learning)

- ・ チームを作り、ひとつのテーマについて3カ月(12月~2月)かけてプロジェクト成果を出す。
- ・ どんな成果を出すか、どのように進めるかは、チームで議論し、自分たちで考えて自主的に決める。
- ・ 八丈島で2泊3日の合宿を行い、「地域ビジネスを考える」という課題に取り組む。
- ・ 発表会で発表し評価をもらう。



あしたば

八丈島公式サイトより

八丈島産直会 八丈島の産物より

2.4 PBL キャンプ

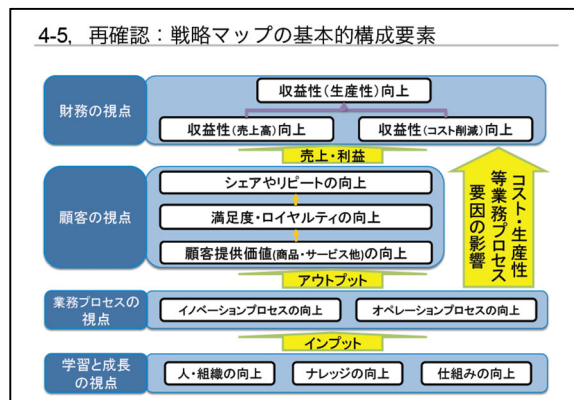
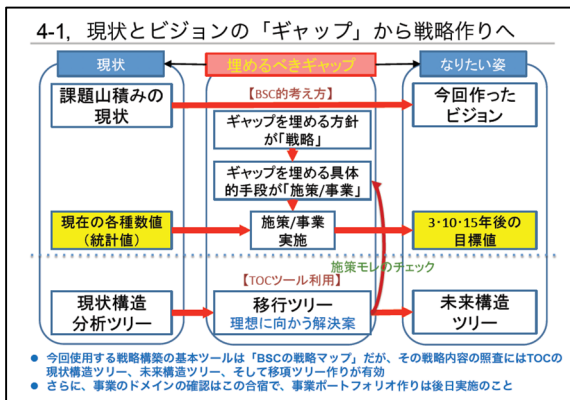
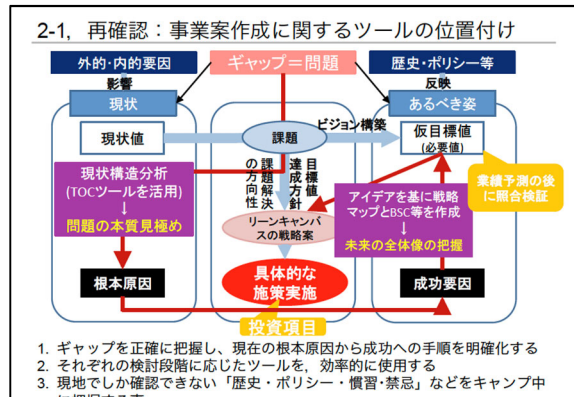
- 日時:2018/11/23(金)～11/25(日)、別途 2018/10/26(金)18:30-21:00 産業技術大学院大学にてオリエンテーション実施
- 場所: 八丈町役場 会議室
- 講師: 剣持 勝 氏 (イーリゾート 代表)、原 亮 氏 (エイチタス株式会社 代表取締役)
- 参加者: 板倉 宏昭 氏 (産業技術大学院大学 教授)、亀井 省吾 氏 (産業技術大学院大学 特任教授)ほか大学関係者 4 名、受講生 16 名
- 実施の様様(2018/11/23-11/25)



● 教材資料:以下資料抜粋

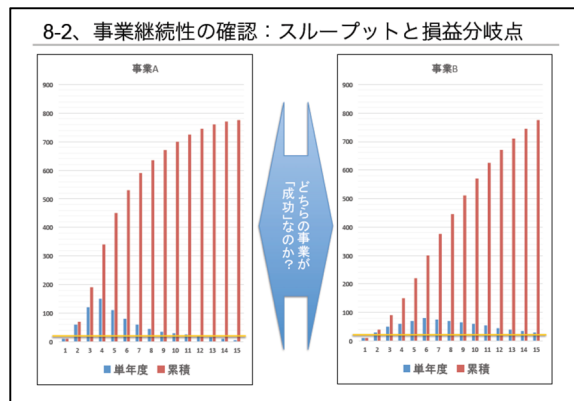
1-1, PBLキャンプ実施の目的と内容 (2)

時間	プログラム	詳細
2018年11月23日	11:15~11:30 羽田空港集合	貸切ターミナル、ビッグホリデーカウンター集合・荷値送荷物分別
13:30~16:00	フィールドワーク	貸切タクシー移動による現地視察(フィールドワーク) ※視察候補地は「島内で事業拡大、もしくは新規起業可能な産業」 ①アイディア抽出トレーニング(=アイスパレック、短時間) ②視察結果の共有(写真を撮影しながらリードを付ける) *各グループにチェック配布 ③アイディアの拡散作業(マダラシート等活用)
16:00~17:45	アイデア抽出	③アイディアの拡散作業(マダラシート等活用)
18:15~19:30	宿舎	宿でチェックイン・入浴など
19:30~21:30	(大宴会室)	②思いついたアイデアの発表会(ブラッシュアップの第1段階)
2018年11月24日	9:00~12:00	地域課題問題発見 制約条件下理論(TOC)の現状構造ツリー作成での根底問題発見 ビジョンの構築 TOCの未来構造ツリー作成を通しての、地域の仮ビジョン構築
12:00~13:00	戦略構築(仮)①	仮ビジョンに応じた戦略マップ作成 仮定要素整理
13:00~17:30	戦略構築(仮)②	戦略マップのブラッシュアップと共有 地域のストーリーあぶり出しと、ビジョン・戦略の確定
17:30~19:30	戦略構築(仮)③	戦略マップの共有と再度のブラッシュアップ、そして共有 戦略マップを基にしたスコアカードの作成
19:30~21:30	現地交流会	みはらしの湯 ①現地で「地域復興や事業拡大、新規起業に関心のある人」と交流会
2018年11月25日	9:00~12:00	インプット スコアカードを基にしたリーンキャンパス作成 スコアカードを基にしたリーンキャンパス作成
12:00~13:00	事業化①	リーンキャンパスの受講生間共有とブラッシュアップ(資金調達案)
13:00~15:00	事業化②	共有 事業化プランの発表と検討
15:00~15:30	発表	大学側から受講生へ
16:00	送迎バス	貸切バス



7-4, リーンキャンパスの記入例 (作成途中)

Lean Canvas	商品・サービス名	顧客セグメント	チーム名
Key Partners 提携先(上)と提携先(下) <顧客の課題> ①働き方改革により新しく生まれると想定されているユーザーの自由な時間確保に貢献するサービスに需要が生まれる可能性がある。②施設・仕掛けを新設しようとする初期投資が膨大になる。③運営方法がわからず、知名度があがらないうちから競合が参入してくる可能性がある。	Solutions VR+充電 ①VRを応用して、教育投資を節約し、新設費を削減する。②施設・仕掛けを新設しようとする初期投資を削減する。③SNSによる拡散による知名度アップ。	Unique Value Proposition 独自の価値提案 他社にはない独自の価値提案 SNS強化が競争に優位性を生み出す。	Channels チャンネル SNS強化が競争に優位性を生み出す。
Cost Structure コスト構造 ①固定費 100万円 ②変動費 50万円×3人×人数 月50万円	Revenue Streams 収益の源 ①サブスクリプション 月額10万円 ②イベント開催 月10万円×回数 月100万円	Customer Segments 顧客セグメント ①教育機関(企業) ②SNS世代(ユーザー) ③フリーランス ④学生	Channels チャンネル SNS強化が競争に優位性を生み出す。



3 成果報告（平成 30 年度）

3.1 教育プログラム（カリキュラム及び教材開発）

「シニア起業家」養成の教育プログラムは、戦略・IT 技術・マネジメント等の融合型プログラムであり、当教育プログラムのための新設科目（講義 5 科目、事例研究・PBL 2 科目）から構成される。教育プログラムの体系を以下に示す。

3.1.1 修得すべき能力

本学運営諮問会議の答申によれば、今後期待される人材像として、自ら新しい事業を創出できるイノベーション高度人材が挙げられている（運営諮問会議 平成 25 年度 答申）。スタートアップが創出するイノベーションは、IT 技術等を駆使し、新しい事業を開発し、マネジメントすることができてはじめて本当の変革を実現できる。

したがって、修得すべき知識・スキルは以下に示すように戦略、マネジメント、IT 技術を中核に多岐にわたる。

- 戦略・マーケティング（経営、スタートアップ、イノベーション等）
- マネジメント（タスク・プロジェクト、人材・組織、ファイナンス）
- 先端基盤技術としての IT 技術（クラウド、アプリ、AI、ブロックチェーン等）
- 地域における対象分野の業務知識・現状・課題（観光・物販・医療等の各種業種）
- メソッド・ツール（リーン、課題管理、コラボレーション等）

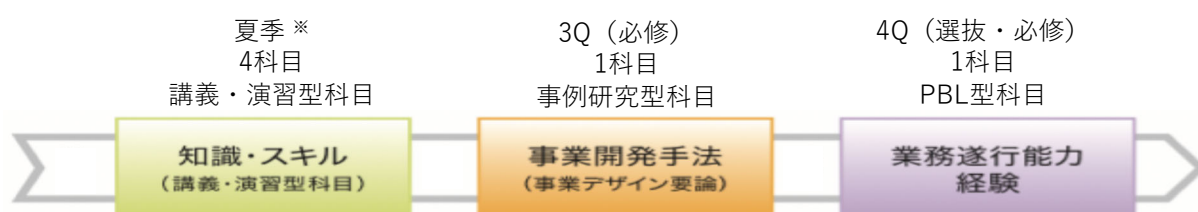
3.1.2 教育内容（授業科目等）、教育方法

当教育プログラムのカリキュラムは、以下の 3 段階から構成される。授業科目一覧は表3を参照されたい。

- 基礎科目の講義・演習型科目 3 科目以上（必修である東京経済事情を除き、2 科目以上を選択必修）
シニア起業家に必要とされる知識・スキルの修得・定着
- 事例研究型科目 1 科目（必修）
事例研究及び事業設計による事業開発手法の修得

- PBL(Project Based Learning)型科目(必修) 1科目
地域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

当教育プログラムのカリキュラムでは、基礎科目では、最初にシニア起業家としての知識・スキルと、地域の現状・課題等を講義・演習型科目で学ぶ。次に事例研究型科目で各種の事例から事業開発手法を学ぶ。最終段階では、業務遂行能力の修得のため、これまで学んだ知識・スキル・事業開発手法を活用・駆使して、PBL 型科目で、対象地域の現状から課題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。当教育プログラムの履修の流れを下図で示す。



※必修科目の東京経済事情を除く。東京経済事情は、夏季から4Qに及ぶ

図 1: 履修の流れ

《基礎科目: 講義・演習型科目》

基礎科目では、シニア起業家に必要とされる知識・スキルの修得・定着のため、講義・演習型 5 科目を設定する。

- 〈オーダーメイド型カリキュラム〉
シニア受講生は、既に修得している知識・スキル、及び現在までのキャリアが様々であり、また高度人材としての目標も(アントレプレナー、イントレプレナー、事業承継等)様々であるため、当教育プログラムでは、すべての科目を固定の必修科目とするのではなく、各学生のキャリアプランに対して必要とされる知識・スキルを修得できるように、基礎科目群から独自の履修計画を設計する仕組みを取る(オーダーメイド型カリキュラム)。
- 〈大学院レベルの知識体系・知識単位〉
当教育プログラムの授業科目は、履修によって修得可能な到達レベルが明確に設定されている。学生は、オーダーメイドの履修計画を作成する段階、実際の授業科目の履修の段階等、各自が修得する必要がある知識がどの程度修得できているかという達成度を常時確認することができる。
- 〈学修効果を高める教育手法〉

単に知識の修得だけではなく、実際に業務で活用できる事例に基づいた講義・演習・グループワーク・録画授業による反復学修を、科目別に最も適した構成で取り込んだ教育手法を採用する。

《事例研究型科目》

事業デザイン要論では、MBA 等で活用されているケーススタディ、ケースメソッド等の手法を参考に、本学にて開発した事例研究型教育手法によって事業開発手法を学ぶ。

- 〈PBL 型教育を意識した独自教材〉

本授業は、本学にて開発した独自教材の事例に基づいて、(フェーズ 1) 学生による事前準備、(フェーズ 2) 小グループでのグループディスカッション、(フェーズ 3) クラスディスカッションという流れで授業を展開し、各種の事例に対する要因分析から、情報分析、問題解決のスキルを駆使して、戦略立案、実現可能性の検証、意思決定の訓練を行い、PBL 型教育に対する準備とする。

《PBL 型科目》

実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)が不可欠である。本科目では、地域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning) 型授業を行う。

- 〈業務遂行能力(コンピテンシー)〉

本学が提唱する「コンピテンシー」に類似する概念には、仕事、多くの職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を意味する「社会人基礎力」、問題解決・交渉・モチベーションアップ等の非定型の対人的技能を意味する「ソフトスキル」等がある。本プログラムでは、シニア起業家に必要とされる業務遂行能力として、「7 つのコアコンピテンシー」、さらにこれらの源として「3 つのメタコンピテンシー」を設定している。

- 〈大学院レベルの PBL〉

本学では、2006 年の開学時から PBL 教育を行い、PBL の教育手法を積極的に開発してきており、PBL 活動を通常の大学院の修士論文(研究活動)相当に位置付けている。学生は、原則 2 年次の時間のすべてを PBL に使う。PBL 教育は、医学・看護等の分野で先行して活用されているが、他の大学等では、既存の教材にしたがったシミュレーションだったり、数単位

相当の時間であったりすることが多いが、本学の PBL は、大学院レベルの質・量で、実務に近い相当規模のプロジェクトを行うことが特徴である。企業・自治体等の外部組織と連携したり、成果を論文として発表したりする PBL も多数ある。

- 〈PBL のメンバー構成〉

通常の業務では、単独で問題解決にあたることは稀で、通常は複数メンバーからプロジェクトが構成される。本学 PBL でも、これを反映し、5 名程度のメンバーからプロジェクトを構成し、問題解決のために協働作業を行う。シニア受講生が多数を占める本プログラムでは、構成メンバーの職業・職位・経験等は様々で、経験を積んだ技術者やデザイナー、教員、一流企業の部長級というメンバー構成等、タスクタイプ多様性あるチーム構成が実現する。各 PBL チームには 3 名の教員が指導にあたる。

- 〈成果・過程・評価〉

通常の業務プロジェクトは、成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管理も要求される。本学 PBL でも、プロジェクト計画を作成し、計画的に作業したり、計画を修正したりすることによってプロジェクト管理を体験する。PBL 型科目の成績は、3 名以上の教員で評価点を付け、成績評価を決定する。評価点は、あらかじめシラバスに明記された基準への達成度による評価に基づき、PBL の「成果」及び「活動状況」を「質」及び「量」から評価を行う。

表 2 に、当プログラムの新設科目の概要、表 3 に、当プログラムの授業科目一覧を示す。

表 2 新設科目の概要

授業科目名	英語	担当教員	内容
東京経済事情	Tokyo Economic Situation	板倉 宏昭、 ゲスト講師	活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。
経営戦略要論	Strategic Management	原田 保	本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。また、特に重視される戦略は、コンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。

マーケティング要論	Marketing	江戸 克栄	本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識だけではなく、実践的な「分析力」と「創造力」を養う必要がある。本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を習得するだけではなく、演習を通してマーケティングに必要なマーケティング・マインドを養っていく。さらに、現代社会の潮流を分析した上で、今後のマーケティングの中で重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会について考察していく。
ファイナンス要論	Venture Finance	三好 祐輔	本講義の目標は、経営者の立場に必要なファイナンスの基礎を修得することである。企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。本講義を通して、企業財務に関する実践的知識・スキルの取得と問題発見と解決・提案力を培えるように支援する。また、本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスと、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域においてアントレプレナーに有用なもの、双方について学ぶ。
IT イノベーション要論	IT Solutions	戸沢 義夫	今後の情報社会情報システムの役割は、データ取り込みと情報共有手段としての役割がさらに重要となる。専門家でなくても容易にクラウド活用できるサイボウズ社の Kintone を用いて、システム構築を試みる。身近なテーマを選んで Kintone による情報システム構築を行う以外に、最近話題になっているテーマ(ブロックチェーンや人工知能など)について解説する。
事業デザイン要論	Business Architecture	戸沢 義夫 亀井 省吾	既存の事業開発・事業改革の事例(ケース)を研究する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを擬似経験する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうなっているか、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らして、どのような課題があるかを明確にする。与えられた事例に対して、チームで検討し、結果をプレゼンテーションする。
シニアスタートアップ特論	Business Architecture Case Study	板倉 宏昭 亀井 省吾	当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。

表 3 授業科目一覧

種類	科目名	授業時間数
基礎	東京経済事情	12
	マーケティング要論	12
	ファイナンス要論	12
	IT イノベーション要論	12
	経営戦略要論	12
事例 研究	事業デザイン要論	12
PBL	シニアスタートアップ特論	12

基礎科目群として、必修科目である東京経済事情を除く4科目は、2科目以上の選択必修科目であり、事例研究型科目である事業デザイン要論の履修前に修了する必要がある。また、PBL 型科目であるシニアスタートアップ特論の履修前には、事業デザイン要論を修了する必要がある。

3.1.3 授業期間

本プログラムは8月に始まり、翌年3月に終わる。授業期間は、概ね以下の通りである。授業時間は、社会人の学び直しを考慮し、原則として、平日の夜間(18:30～21:40の90分×2回)及び土日昼間(9:00～18:00の90分×5回)に授業を開講している。

- 東京経済事情:9月から2月初旬までの8回
 - 基礎科目(東京経済事情除く):8月から9月末までの8回
 - 事業デザイン要論:10月から11月初旬までの8回
 - シニアスタートアップ特論:12月から1月末までの8回*
- * 2月に補講1回、3月にPBL発表会実施

また、欠席者への授業録画等の仕組みを活用した。

3.1.4 履修資格

日本の4年制大学を卒業した者、またはこれに準ずる者。

3.1.5 成績評価方法・基準

成績評価は100点満点での評価点を参考に、以下表にしたがい合否判定を行う。

表 4 成績評価

判定	評価点	成績
合格	100点から90点	5
合格	89点から80点	4
合格	79点から70点	3
合格	69点から60点	2
不合格	59点から1点	1
不合格	0点	0

厳格で一貫した成績評価を行い、教育の質を保証するため、以下の成績評価及び基準を設定する。

- 科目ごとに成績評価5あるいは4にあたる「上位到達目標」、成績評価3あるいは2にあたる「最低到達目標」という到達目標を設定し、これらに準拠した絶対評価を行う。各科目の到達目標はシラバスで公開する。
- 成績評価は原則として、授業の目的及び到達目標に則した複数の方法で行う。成績評価の方法及び比率(「課題レポート30%、発表30%、試験40%」等)はシラバスで公開する。
- 成績評価の方法に出席点に相当するものは無い。

3.1.6 修了要件

東京経済事情含む基礎科目3科目以上を修了し、事業デザイン要論、シニアスタートアップ特論を修了すること(内訳は下表参照)。

表 5 修了要件

科目群	備考	種別		
		必修	選択必修	選択
基礎科目(東京経済事情)		○	—	—

基礎科目群(東京経済事情以外)	4科目から選択	—	2科目	○
事業デザイン要論	事例研究型科目	○	—	—
シニアスタートアップ特論	PBL型科目	○	—	—

修了要件の最小総授業時間数(基礎科目3科目、事業デザイン要論、シニアスタートアップ特論)60時間(12時間×5科目)である。

3.1.7 担当教員

表6に、当プログラムの授業担当教員一覧を示す。このほかに、「東京経済事情」、「シニアスタートアップ特論」等では産業界、公共機関からゲスト講師等を招聘する。

表6 担当教員

教員名	専任	実務家	当事業で担当する講義	学位・業績・経歴
板倉 宏昭	○	○	東京経済事情、シニアスタートアップ特論	本学情報アーキテクチャ専攻教授、博士(学術)、元(株)日本IBM等
亀井 省吾		○	事業デザイン要論、シニアスタートアップ特論	本学特任教授、博士(学術)、元東京海上日動火災保険(株)等(Venture Capital等)
戸沢 義夫		○	ITイノベーション特論、事業デザイン要論	本学名誉教授、理学修士、元(株)日本IBM等(Distinguished Engineer・コンサルタント等)
原田 保		○	経営戦略要論	一般社団法人地域デザイン学会 理事長、元(株)西武百貨店取締役(企画室長等)等
江戸 克栄			マーケティング要論	県立広島大学大学院 経営管理研究科 専攻長 教授、修士(商学)
三好 祐輔			ファイナンス要論	香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授、経済学博士

3.2 当教育プログラム運用状況

3.2.1 オリエンテーション

- 日時:2018/08/25(土) 14:00-17:00
- 場所:産業技術大学院大学 351a 教室
- 受講生:33名

AIITシニアスタートアッププログラム

オリエンテーション




公立大学法人 首都大学東京
産業技術大学院大学

東京経済事情 (必修)

▶ 講義概要
活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、広く東京の経済事情を学ぶ。各界マネジメントのパスペクティブから捉えられた現状から、受講生各人が起業を考えるに当たり、どのような未来を描き、どのような課題を解決していきたいのかを考えるヒントを得ていくことを目的としている。

▶ 開講日程 (品川シーサイドキャンパス)
9月～2月 (合計8コマ、12時間)。
予定:水曜日・19時から20時30分
オムニバス形式

▶ 初回講師:島田晴雄
公立大学法人・首都大学東京理事
慶應義塾大学名誉教授




9月5日 (水曜日) 18時30分～20時

経営戦略要論

▶ 講義概要
実践的視点から講義を展開する。実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを具体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するインタラクティブ講義。特に重視される戦略はコンテキストからの戦略デザイン。コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得を目指す。

▶ 開講日程 (品川シーサイドキャンパス)
8/28(火)-8/30(木)、9/4(火)の6,7限 (合計8コマ、12時間)。

▶ 講師:原田保 (地域デザイン学会理事)
早稲田大学政治経済学部卒業。西武百貨店取締役企画室長、香川大学経済学部教授、多摩大学ルネッサンスセンター教授等を経て現職。専門は戦略研究、文化評論。著書は、『戦略的パーソナル・マーケティング』『ブランドデザイン戦略』『ソシオビジネス革命』『無形資産価値経営』等多数。





事業デザイン要論

▶ 講義概要
実際の事業開発・事業改革の事例(ケース)をチーム検討する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを疑似経験する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうなっているか、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らして、どのような課題があるかを明確にし、結果をプレゼンテーションする。

▶ 開講日程 (品川シーサイドキャンパス)
10月～11月 (合計8コマ、12時間)。

▶ 講師:戸沢義夫 (本学名誉教授)
日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所、コンサルティング部門等を経て、2006年産業技術大学院大学教授、情報アーキテクチャ専攻長など歴任。

▶ 講師:亀井省吾 (本学産業技術研究科特任教授)
多摩大学大学院経営情報学研究科客員教授、博士(学術)。東京海上火災保険(株)、投資銀行等にてベンチャーキャピタル投資職掌を経て現職。

シニアスタートアップ特論



▶ 講義概要

- チームを作り、ひとつのテーマについて3カ月かけてプロジェクト成果を出す。どんな成果を出すか、どのように進めるかは、チームで議論し、自分たちで考えて自主的に決める。
- 八丈島でPBLキャンプ「地域ビジネスを考える」を実施。
- 起業家等による中間レビューを受け、発表会にて最終成果プレゼンテーションを実施する。

▶ 開講日程 (品川シーサイドキャンパス他)
12月～2月 (合計8コマ、12時間)。

▶ 講師:板倉宏昭 (本学産業技術研究科教授)
博士(学術)。IBM(米国)入社以降、マサチューセッツ工科大学(MIT)経営大学院客員研究員、東京大学先端研客員研究員、香川大学大学院地域マネジメント研究科研究科長 教授を経て現職。

▶ 講師:亀井省吾 (本学産業技術研究科特任教授)
多摩大学大学院経営情報学研究科客員教授。博士(学術)。東京海上火災保険(株)、投資銀行等にてベンチャーキャピタル投資職掌を経て現職。

PBL CAMP

10/26 (金) 18:30-21:30 事前ガイダンス@AIIT
11/23 (金) -11/25 (日) 実施@八丈島

Field work X Ideathon

▶ 講師:釘持勝 (イー・リゾート代表)
地域経営及び観光事業のコンサルタント。北海道ニセコひらふ地域の改革(2002年から12年で外国人客数を約50倍超に増加の礎を造る)をはじめとして、数々の地域経済の再建を担当。また日本でのDMO活用の言い出しっぺのひとりで、この5年間で5カ所のDMO設立に関わる。地域でのアイデアソン開催経験7年の実績。



3.2.2 東京経済事情

- 日時: 2018/09/5(水), 12(水), 10/3(水), 17(水), 12/5(水), 19(水), 2019/01/16(水), 02/06(水) 19:00-20:30
- 場所: 産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生: 33 名

活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。

**中小企業が成す、
事業承継と
新たな事業への挑戦**

2018.9.12

堀江車輛電装株式会社

1968 堀江車輛電装株式会社設立

2000 現・代表取締役 堀江泰 入社

2007 二代目社長 病氣のため亡くなる

2012 現・代表取締役 堀江泰 代表取締役 就任

2015 離がいの者支援事業 トライアングルサービスマスタート

2016 新事業の拡大 会社初の事業買収

2018 ビルメンテナンス事業 サービス開始

現在に至る

そして生まれたシナジー

ビルメンテナンスの技術を生かして車両事業をサポート

新事業のメディア露出が既存事業のメディア露出のきっかけに...!

堀江車輛電装株式会社

Building Parts Service ビルメンテナンス事業 離がいの者支援事業 tryangle

ビルメンテナンス事業部に所属する障がいのある社員を障がい者支援事業部の専門知識を持ったスタッフがフォロー

**離島の現状と
産業振興事例**

2018年10月17日
一般社団法人八丈島観光協会
副会長 歌川 真哉

■島での11年間の暮らしで学んだこと③

- ・観光事業者の使命はヒト・モノ・カネを島外から呼び込むこと。交流人口・滞在人口を増やすこと。
- ・よそ者、若者、ばか者は必要。
- ・島民はお客様には優しいが改革者には厳しい。
- ・自分の目標と社会の目標を一緒にすると可能性が広がる。
- ・観光資源は創ることができる。
- ・ひとまず動き出すことが大事。
- ・やりたいことを表明する。夢を語るとこは大事。
- ・世界を変えたいければ、世界を変えるような考え方と行動を。

八丈島乳業 離島酪農のメソッドを確立し 島酪農の聖地へ!

八丈島乳業の挑戦①

HACHIJU TOKYO PROJECT II

8x 1000円 8x 1000円

八丈島乳業の挑戦①

① 九べもの風土は確立できる

② 環境と生きものとの関わり

③ 島民と島外との関係

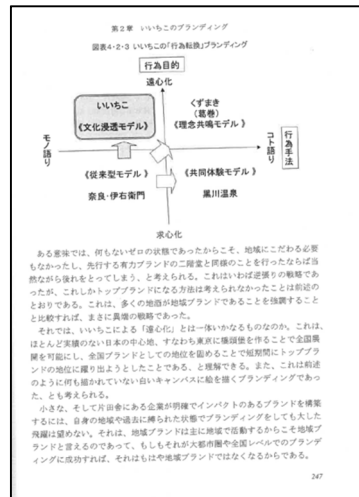
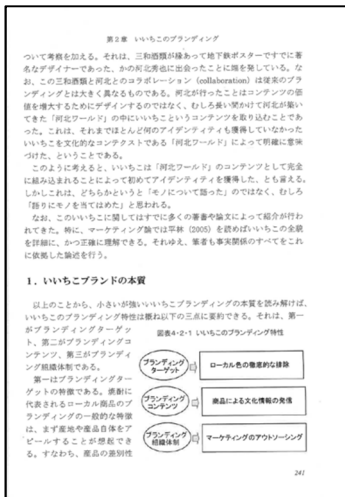
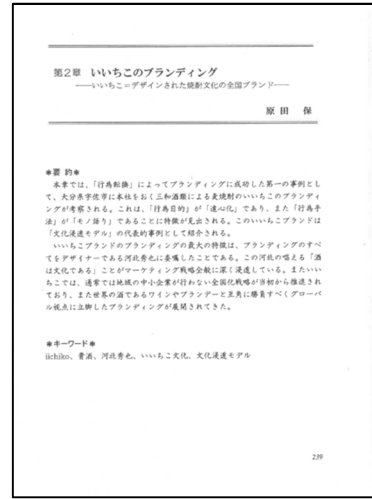
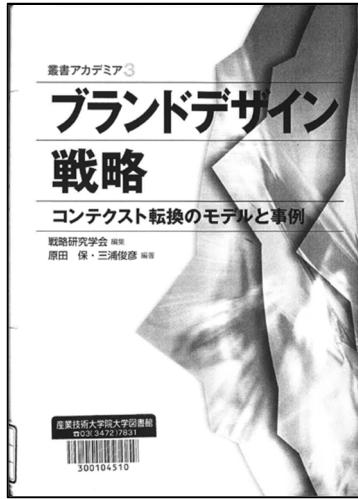
④ 八丈島産100%の製菓

⑤ 離島の島産品一歩一歩

3.2.3 経営戦略要論

- 日時:2018/08/28(火),29(水),30(木),09/4(火) 18:30-21:45
- 場所:産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生:20名

本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。特に重視される戦略は、コンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。



3.2.4 マーケティング要論

- 日時:2018/09/14(木),15(金),18(月),19(火) 18:30-21:45
- 場所:産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生:23 名

本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を習得するだけでなく、演習を通してマーケティングに必要なマーケティング・マインドを養っていく。さらに、現代社会の潮流を分析した上で、今後のマーケティングの中で重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会について考察していく。

3.マーケティングの変遷

1. マーケティング・コンセプトの変遷

1. 生産志向
2. 販売志向
3. 消費者志向
4. 社会志向
5. 顧客志向
6. 関係志向

→どのように変遷していくのか?



1.マーケティングと市場環境分析 SWOT分析

	プラス要因	マイナス要因	
内部環境	強み (Strength) S	弱み (Weakness) W	内部環境
外部環境	機会 (Opportunity) O	脅威 (Threat) T	外部環境

→

		内部環境
内部環境	強み (S)	弱み (W)
外部環境	機会 (O)	脅威 (T)
		外部環境

積極的攻勢 弱点強化 差別化 防衛/撤退

2.マーケティングリサーチの基本 -調査・リサーチ方法の種類-

調査・リサーチ方法	2次データの収集・分析	仮説形成、下調べなどに使用する
	定性調査	少数のサンプル調査
	観察調査	事象を把握する
	実験やテスト	条件下の効果、因果関係等
	定量調査	数量的・統計的分析等

◆調査目的に合わせた調査方法を選択することが重要

1. Marketing Mix: 商品とサービス -経験価値(Schmittによる5つの経験価値)-

顧客経験価値 (Customer Experience)

- SEEK (探知) 経験価値
- FUEL (燃料) 経験価値
- THINK (思考) 経験価値
- ACT (行動) 経験価値
- RELATE (関係) 経験価値

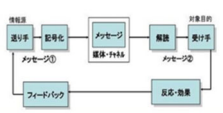
5. Marketing Mix: プロモーション政策 -コミュニケーションモデル-

1. 基本的なコミュニケーションモデル [p.225図参照]

*ノイズの存在

コミュニケーションの現代モデル

プロモーションよりもコミュニケーションと変わることが多くなってきた



3.新しいマーケティングの可能性

■これからのマーケティングに影響を強く及ぼす環境

1. 情報化・グローバル化
2. 観光とインバウンド
3. 少子化・高齢化や人口減少
4. 労働や余暇のあり方
5. 経済格差 (所得格差、地域格差)
6. 環境問題、循環型社会
7. ICT, AI等の科学技術



3.2.5 ファイナンス要論

- 日時: 2018/09/01(土), 08(土) 10:40-14:30, 22(土), 29(土) 14:45-18:00
- 場所: 産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生: 19名

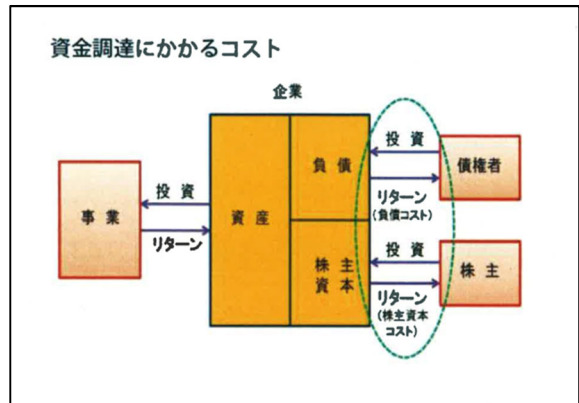
本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスと、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域においてアントレプレナーに有用なもの、双方について学ぶ。

◎花王のEVAの試算

EVA (経済的付加価値) 計算シート
(標記のない単位は100万円)

	正の数	0.248	0.248	新設記事	新設記事
会社名	花王 (1999)	花王 (2000)	花王 (1999)	花王 (2000)	
短期借入金+長期借入金+社債	19,109	26,270	19,109	26,270	
減価償却費より入力	2,852	2,194	2,852	2,194	
(支払利息+有利子負債) × (1-法人税率)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
貸倒損失	474,979	462,987	474,979	462,987	
貸倒損失 × 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
自己資本+有利子負債	494,088	489,257	494,088	489,257	
負債コストと株主資本コストの加重平均	3.1%	2.5%	4.8%	4.7%	
当期純利益	52,147	59,426	52,147	59,426	
当期純利益 × 自己資本	11.0%	12.5%	11.0%	12.5%	
当期純利益 × 負債	10.6%	12.1%	10.6%	12.1%	
自己資本 × 自己資本	26,759	41,456	26,759	36,277	
自己資本 × 負債	750,016	783,760	750,016	783,760	
自己資本 × 自己資本	62.2%	59.1%	62.2%	59.1%	
自己資本 × 負債	8.914	13.791	8.914	13.791	
長期借入金	1,091	8,405	1,091	8,405	
社債	9,104	4,074	9,104	4,074	
負債	23,515	36,557	23,515	36,557	

◎花王の場合、有利子負債から金融資産を差し引いた、実質的な有利子負債はゼロに等しく、負債コストはゼロで計算している。



◎資本構成の主要な理論の紹介 (Harris and Raviv(1991))

- トレードオフ理論... 企業の最適資本構成は、負債の税効果と倒産コストのトレードオフによって決まる...税金(Debt(+)).
- 企業が負債で調達した場合、債権者への支払利息は課税所得から控除される。But株主への配当は、税引き後利益より支払われるため、控除対象とならない。
- ⇒ 負債比率を高めることで、支払利息の課税所得控除(節税)分だけ、企業価値が高まる。

2018年9月8日 AITでの講義 8

Q. WACCとは?

- $WACC = \frac{\text{有利子負債額}}{\text{有利子負債額} + \text{株主資本時価}} \times \text{負債資本コスト} \times (1 - \text{実効税率}) + \frac{\text{株主資本時価}}{\text{有利子負債額} + \text{株主資本時価}} \times \text{株主資本コスト}$
- 有利子負債 = 「短期借入金」、「CP」、「社債」、「長期借入金」の合計
- 株主資本時価 = 「株価」×「発行済み株式数」
- 負債資本コスト(%) = 有利子負債の利率(借入金や社債の金利)
- 有利子負債利率(%) = 支払利息 ÷ 有利子負債
- 実効税率 = 40%として計算
- 株主資本コスト(%) = 株価収益率の理論値(CAPMIによる算出) = リスクフリーレート(10年物の国債の利回り) + 株式のベータ値 × (TOPIXの期待収益率 - リスクフリーレート)

2018年9月8日 AITでの講義 11

◎ケーススタディ③(地域経済への応用)。

- 日亜化学工業の事例... 日亜化学工業は、負債比率が10%代。景気の変動を大きく受ける業種。
⇒ 市場のシェアと技術革新を巡る競争に打ち勝つため、新規投資を機動的に行える環境が必要。
- Q. 負債の節税効果の魅力がないのか?
- A. 負債を増やし、財務レバレッジを高めると利払いの負担が増加し、売上が低迷すれば当期純利益が赤字になる可能性が高まるので、負債利用のコストが高いと経営陣は判断してきた。

2018年9月8日 AITでの講義 30

◎日亜化学工業のB/SとCF(参考資料4)

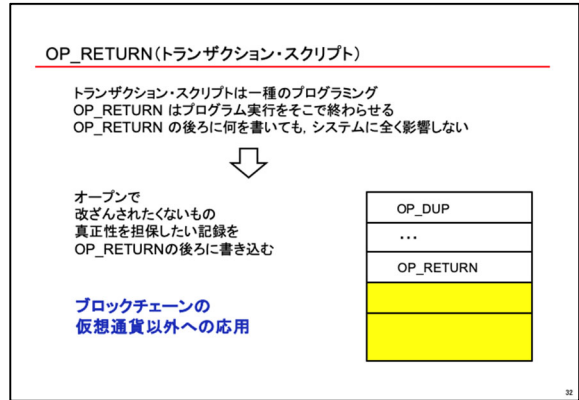
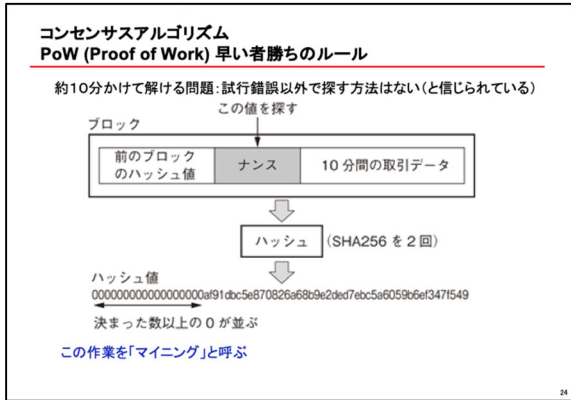
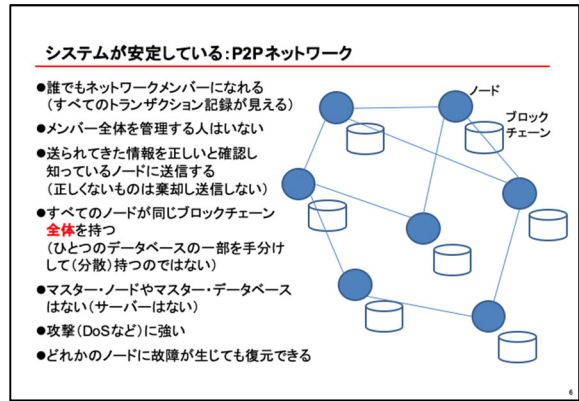
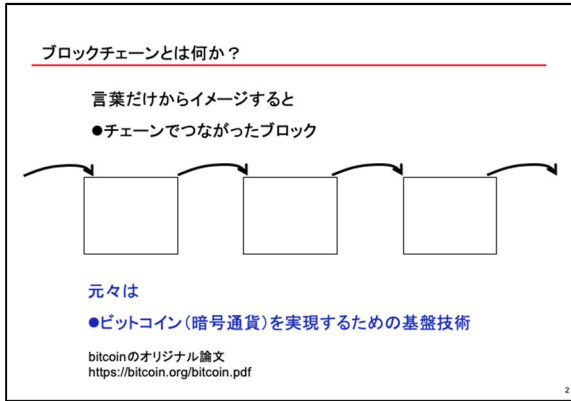
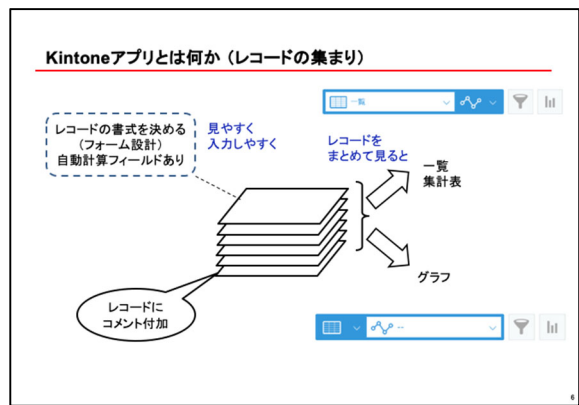
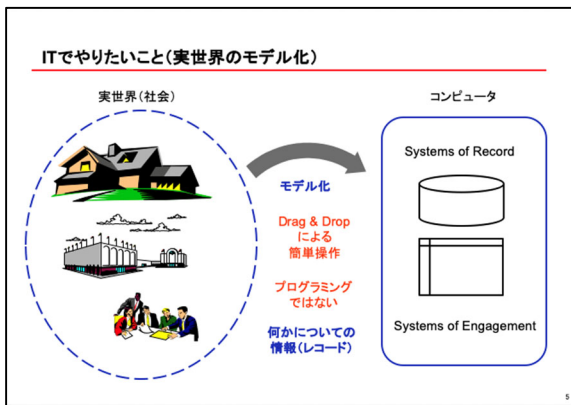
日亜化学工業	2012年12月	2013年12月	日亜化学工業	2012年12月	2013年12月
資産総額	547,719	623,518	営業活動CF	91,855	108,168
負債総額	22%	41%	投資活動CF	-66,981	-77,883
金融負債	22%	41%	金融負債	-64,422	-34,159
営業負債	16%	13%	営業負債(その他の債権)	0	0
無形固定資産	2%	1%	無形固定資産	-300	-8,120
有形固定資産	20%	22%	有形固定資産	-13,789	-22,877
投資その他の資産	8%	10%	投資その他の資産	1,565	5,355
負債合計	100%	100%			
流動負債	1%	2%			
固定負債	8%	8%			
固定負債(その他の債権)	0%	0%			
借入金+社債	5%	5%			
借入金+社債	5%	5%			
純資産	87%	87%			
負債+純資産合計	100%	100%			
流動資産比率	63%	61%			
流動負債比率	2%	2%			
有利子負債比率	9%	11%			
有利子負債比率	9%	11%			
有利子負債比率	9%	11%			
有利子負債比率	9%	11%			

2018年9月8日 AITでの講義 31

3.2.6 IT イノベーション要論

- 日時: 2018/08/24(月), 25(火), 26(水), 27(木), 28(金) 18:30-21:45
- 場所: 産業技術大学院大学 秋葉原キャンパス教室
- 受講生: 20 名

現在の情報社会における情報システムの役割として、データ取り込みと情報共有側面がさらに重要になってくる。本授業では、専門家でなくても容易に業務で活用できるサイボウズ社のクラウドを活用した Kintone を活用し、情報システムを構築する。また、最近話題になっているテーマ(ブロックチェーンや人工知能など)について解説する。



3.2.7 事業デザイン要論

- 日時: 2018/10/13(土) 18:30-20:00, 21(日) 10:40-16:15, 11/04(日) 10:40-16:15, 10(土) 18:30-20:00
- 場所: 産業技術大学院大学 351a, 286PBL 教室
- 受講生 28 名

既存の事業開発・事業改革事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを擬似経験する。ビジネス環境変化、ステークホルダー、ビジネスモデル、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らし、どのような課題があるかを明確にする。チームで検討し、プレゼンテーションする。

Knowledge Exploration

出所: 入山章栄 日経2014/7/21経済教室を加工

Element Process of Case Method

出典: 亀井省吾, 小山裕司, 戸沢義夫, 渡瀬原「PBLフォードメソッドグループ形成と学習人材の多様性」一専門職大学院での社会人学生(博士)等を中心とした「知見」情報処理学会 情報教育シンポジウム, SS2016 午後編掲載論文を加工

参考文献について

ケースの他参考文献等は、プロジェクトに掲載。

サイボウズ「100人100通りの働き方」

幸福感とパフォーマンス

Lyubomirsky, King, and Diener(2005)では、225件の学術研究をメタアナリシスした結果、**幸福感の高い社員の創造性、生産性、売上寄与度の向上**が判明。

Source: Sonja Lyubomirsky, Laura King, and Ed Diener, "The Benefits of Frequent Positive Affect: Does Happiness Lead to Success?"; Psychological Bulletin, Vol. 131, No. 6, 2005.

Open Innovation Platform

Source: Chesbrough, H. (2003), "Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology", Harvard Business School Press.

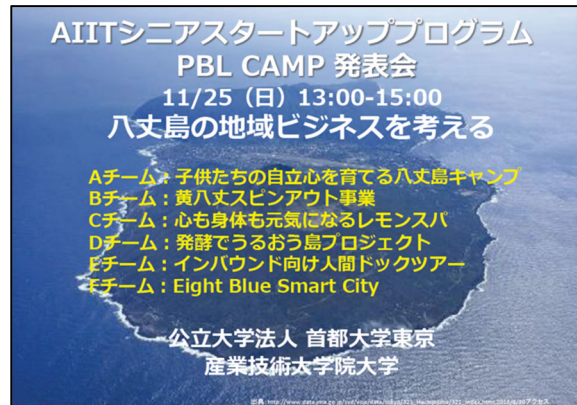
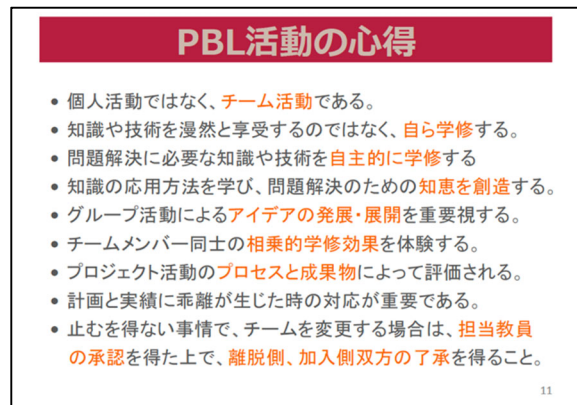
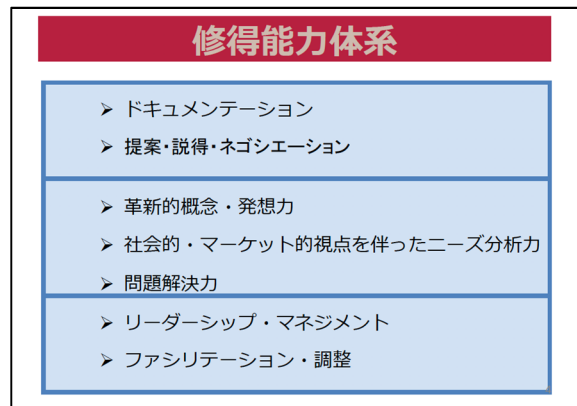
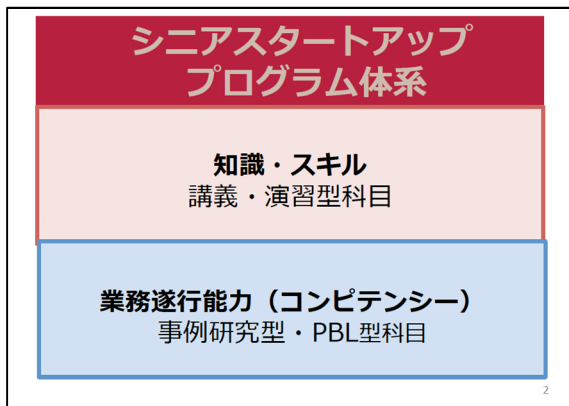
AI時代の人間の役割

Source: Thomas H. Davenport and Julia Kirby, "Beyond Automation", June 2015 issue (pp.58-65) of Harvard Business Review. を加工

3.2.8 シニアスタートアップ特論

- 日時:2018/12/09(日),23(日),2019/01/13(日),27(日),補講 02/17(日) 13:00-16:15
- 場所:産業技術大学院大学 351a,286PBL 教室
- 受講生 27 名

当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。



3.2.9 プログラム運用結果

本プログラム科目の履修状況は以下表 7 のとおり、基礎科目においては、受講生全員が必修にて受講する東京経済事情以外の選択必修 4 科目について、1 科目平均約 21 名が受講し、必修選択 2 科目に合格した 28 名が事例研究型である事業デザイン要論に進んだ。更に、事業デザインに合格した 28 名の内、27 名が PBL 型科目であるシニアスタートアップ特論に進み、最終的に 26 名が本プログラムを修了した。授業評価アンケートによると、対象外のシニアスタートアップ特論以外の 6 科目は、5 段階評価で 3.84 の評価平均を得ている。尚、担当講師には結果をフィードバックしつつ、講義内容の一層の改善を促している。

表 7 平成 30 年度プログラム受講者の集計

	履修者数	授業評価	合格者
東京経済事情	33	3.83	31
経営戦略要論	20	4.31	20
マーケティング要論	23	4.12	23
ファイナンス要論	19	3.67	19
IT イノベーション要論	20	3.21	20
事業デザイン要論	28	3.91	28
シニアスタートアップ特論	27	—	26

3.2.10 PBL 成果発表会

平成 30 年度シニアスタートアップ特論のチーム構成は、「八丈島における地域ビジネスを考える」をテーマとしてタイトル別に 4 チーム。各チームの進捗については、担当教員によるコアミーティングの他、産業界及び公共機関から有識者レビュアーを招聘した中間レビューにおいて、プレゼンテーションを実施し、意見交換を行っている。尚、平成 31 年 3 月 9 日には、Start-Up Hub Tokyo(大手町)にて PBL 成果発表会を実施している。

表 8 平成 30 年度 PBL

	人数	タイトル
A チーム	5 名	つなげる・つながる八丈島
B チーム	8 名	黄八丈によるコミュニティからはじめる健康サービス事業
C チーム	7 名	元気になる島八丈島レモンスパプロジェクト
D チーム	7 名	スマートシティをキーワードに八丈島の産業振興策を構想する

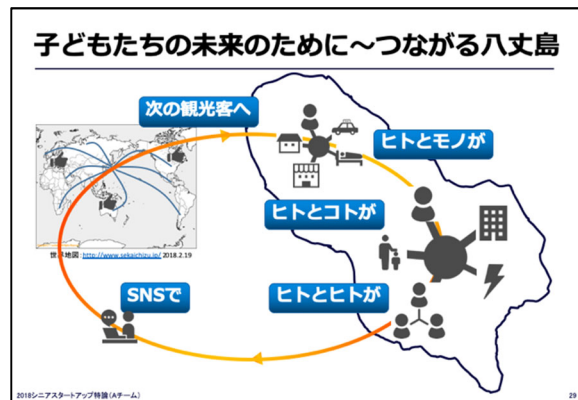
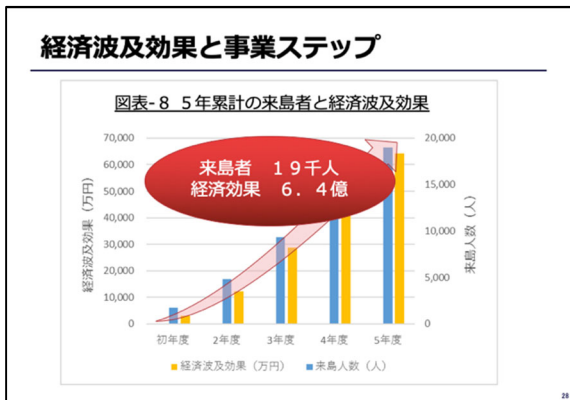
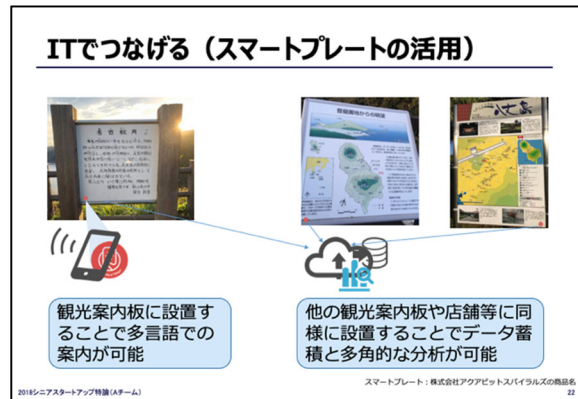
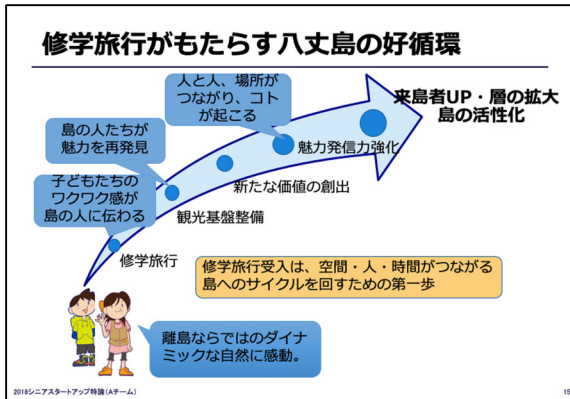
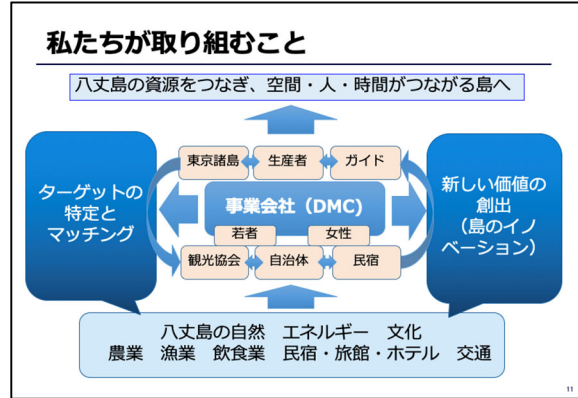
3.2.11 PBL 成果発表会及び修了式式次第

- 日時:2019/03/09(土) 13:00-17:00
- 場所: Startup Hub Tokyo
- スケジュール
 - 13:30-13:10 開会挨拶 川田 誠一 氏 (産業技術大学院大学 学長)
 - 13:10-13:15 来賓紹介
 - 13:15-13:30 プログラム及び成果発表概要説明 板倉 宏昭 氏 (産業技術大学院大学 教授)
 - 13:30-15:40 成果発表
 - 16:00-16:40 講評コメント 川田 誠一 氏 (産業技術大学院大学 学長)、
山下 奉也 氏(八丈町長)、
長谷川 悠希 氏(公益財団法人東京都中小企業振興公社 事業
戦略部 創業支援課長)、
山本 康博 氏(公益財団法人東京都中小企業振興公社 事業戦
略部 創業支援課創業支援係長 兼 創業相談係長)
 - 16:40-16:50 プログラム受講生修了式
 - 16:50-17:00 閉会の挨拶 海老澤 伸樹 氏(産業技術大学院大学 教授(OPI 長))



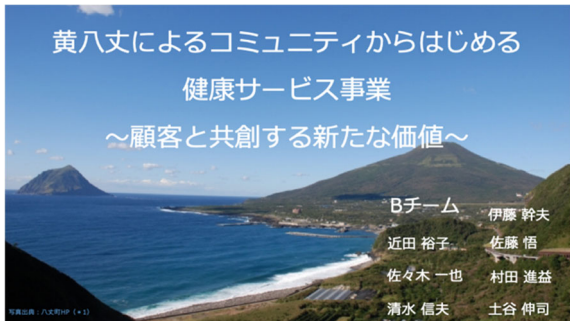
《Aチーム》

- タイトル: 「つなげる・つながる八丈島」
- 発表内容: 以下、資料抜粋



《Bチーム》

- タイトル: 「黄八丈によるコミュニティからはじめる健康サービス事業」
- 発表内容: 以下、資料抜粋



I. 黄八丈による顧客創造

黄八丈の課題

1. 現在、組合員（親子）総数は、50名ほど。近年高齢化が進み、【後継者の育成】が大きな課題
2. 後継者不足の最大の理由は、【経済的な魅力】がない。自立して生活が成り立つ環境が整っていない。
3. 染・織の生産形態は、もはや伝統工芸であり、効率化・ビジネス的なアプローチが不十分。

解決方針

黄八丈の【全く新しい顧客、新しい価値を創造】し経済効果に純増させる。

制作体験ツアー

1. 提供価値
 - ① 【一部を自分で織り、プロが織り終った】の黄八丈購入。プロの手ほどきで自分だけの黄八丈が手に入る。→【黄八丈の付加価値を上げる。】
 - ② 【黄八丈織技術の習得】技術を習得し免許取得 →【本格織師→サイトビジネスとして】
 - ③ 織や染た写真、作品、修了者工房WEBサイトやSNSで積極的に紹介 → 話題づくり、思い出づくり
2. 集客
 - ・ YouTube、ブログなどを活用して話題づくり
 - ・ 旅行サイトなどの口コミ、当初は百貨店優良客

商品企画への参画

1. 提供価値
 - ・ 黄八丈を使った商品企画への参画（デザインや用途、商品企画と一緒に考える）
 - ・ 販売チャネルも八丈専shop+Web+各自参画者など）自宅の環境を黄八丈に、織のノウハウ/アイデア
2. 集客
 - ・ 制作体験顧客が費用ゼロで自ら企画～販売
3. 期待効果
 - ・ 従来とは異なる視点での商品企画
 - ・ 参画者自らの販路・売り場の開拓

* 黄八丈との濃厚な関わりを通じて、リピート、滞在期間の長期化を図る。



III. 滞在の長期化に伴う住環境へのニーズの変化

黄八丈への入れ込み度合いが高まるにつれて、仲間とのつながりが深まるとともに、**長期滞在のニーズ**が高まる。これに応じたサービスを提供することで顧客の満足度を維持し、優良顧客として囲い込む。快過で負担を抑えた**住環境**の整備と健康不安を感じさせない**医療介護サービス**が、滞在長期化の鍵となる。

中期

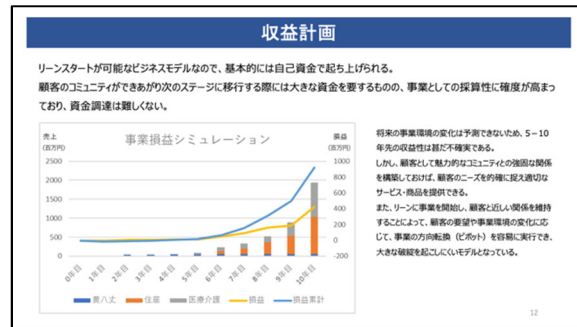
- ・ 1週間から1ヶ月程度の滞在を繰り返す。
- ・ ホテル滞在で十分だが、ホテルを値上げでシェアしてもよい。

長期

- ・ 1ヶ月以上の滞在→2拠点居住で、生活の重心は都市にある。
- ・ ニーズに合わせてサービス付き住宅を用意し、お礼も利用を促す。

定住

- ・ 長期的には老後不安からサービス付き集合住宅に移り住む。この時点では、よく知っている人たちの土地になっている。
- ・ 経済的負担を抑え、医療介護サービスが充実していることが決め手となる。



《Cチーム》

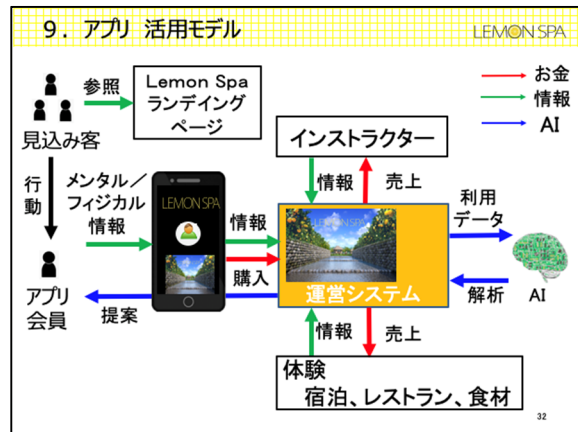
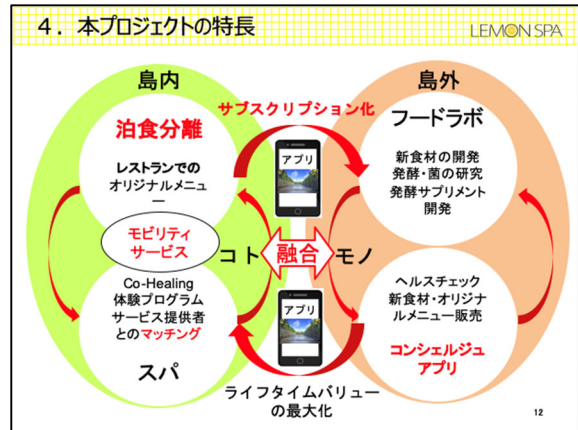
- タイトル: 「元気になる島八丈島レモンスパプロジェクト」
- 発表内容: 以下、資料抜粋

AIITシニアスタートアップPBL成果発表会20190309

元気になる島 八丈島 レモンスパ プロジェクト

“おとなのCo-Healing”

Cチーム
大久保敏之・木佐谷康・小泉満・坂本弘子・竹内仁・松下秀治・本原幸夫



10. 事業計画<事業KPI>

KPI/KGI	Step1		Step2		Step3	
	1期	2期	3期	4期	5期	5期
スパ・宿泊稼働率	25日x40%	25日x60%	25日x70%	25日x80%	25日x80%	
レストラン来島者利用率	0%	1.0%	2.0%	3.0%	3.5%	
アプリ有料会員数	120人	3,000人	4,700人	5,300人	6,000人	
物販売上高	150万円	1,900万円	8,400万円	1億8,000万円	2億9,000万円	
売上	3,000万円	1億1,500万円	3億円	4億6,000万円	5億8,000万円	
経常利益	▲1,400万円	▲600万円	1,370万円	4,100万円	5,700万円	


*補助金9000万円は3期~5期に分割して計上

10. 事業計画<工程表>

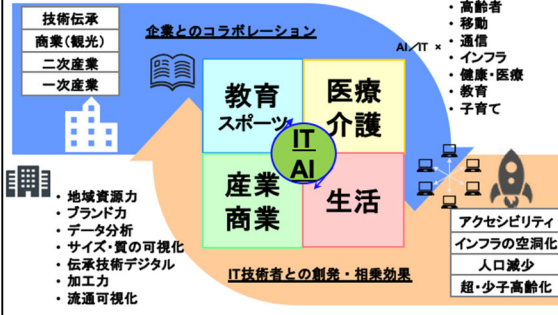
	1期	2期	3期	4期	5期
スパ施設開発	賃貸物件の契約 改修	関連施設との連携 強化		スパ施設増設 (スパ・マッサージ・リビング)	
飲食サービス	周辺飲食店と提携 メニューレシピ開発		飲食施設との連携拡充 メニューレシピ拡充		モビリティサービスによる連携強化
宿泊サービス	周辺宿泊施設と連携	宿泊棟建築 補助金・指定管理者 オプション決定	新宿泊棟利用開始	宿泊施設との連携 拡充 古民家リノベーション 拡充	
モビリティサービス	タクシーとの連携 小型バス運送 サービス			モビリティサービス 導入	
コンシェルジュアプリ	コンシェルジュ サービスの開発	AI開発	バイタルデータ活用 ヘルスチェック サービス	VR体験サービス 開発	VR体験サービス 提供
フードラボ	オリジナルメニュー 開発			発酵センター建設	発酵サプリメント 開発
マーケティング	クラウドファンディング 動画、SNSの活用	映画、ドラマ 撮影誘致	行政との連携	アライアンス先との 連携	
資金面	銀行融資5,000万円 創業助成事業申請 もの補助申請	VC資金調達1億円 銀行融資1億円 革新的事業申請	VC資金調達 5000万円		

《Dチーム》

- タイトル: 「スマートシティをキーワードに八丈島の産業振興策を構想する」
- 発表内容: 以下、資料抜粋

スマートシティをキーワードに八丈島の産業振興策を構想する
 - Incubation FacilityとBlockchain技術活用の提案 -
 Dチーム
 加藤 高志、小山 由美、佐藤 司、田中 均、辻 武伺、長瀬 博之、中村 正之

 AIITシニアスタートアッププログラム特論 2019年3月9日発表

Incubation Facilityにおける事業
 スタートアップ/社会実装/実証試験



技術伝承
 商業(観光)
 二次産業
 一次産業

企業とのコラボレーション

教育 スポーツ
 産業 商業
 医療 介護
 IT AI
 生活

地域資源力
 ・ブランド力
 ・データ分析
 ・サイズ・質の可視化
 ・伝承技術デジタル
 ・加工力
 ・流通可視化

高齢者
 ・移動
 ・通信
 ・インフラ
 ・健康・医療
 ・教育
 ・子育て

アクセシビリティ
 インフラの空洞化
 人口減少
 超・少子高齢化

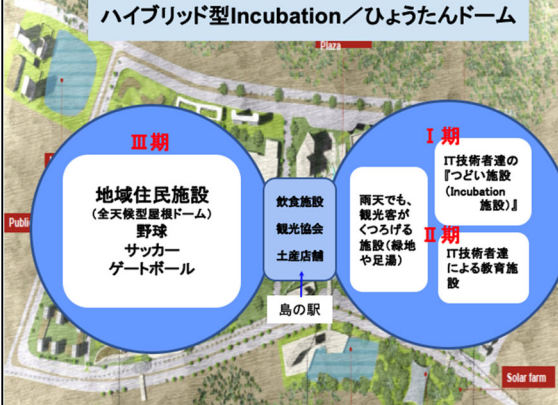
IT技術者との創発・相乗効果

一般社団法人(仮称)八丈島スマートシティプロジェクト推進委員会の設置

ハイブリッド型Incubation施設の設置計画

【I期】 IT技術者達の『つどいの施設』(小規模)	コンテナシェアハウス 既存施設の有効利用
【II期】 地域住民と観光客の『つどいの施設』 IT技術者達の『つどいの施設』(本設)	『つどいの施設を屋根で覆う』(本設)
【III期】 ひょうたんドームをシンボルとしたハイブリッド型Incubation施設、風力を利用海水冷却式データセンター建設	ひょうたん型の連続ドームを形成 省力データセンター誘致
【IV期】 あらゆる産業が揃う八丈島でIT活用の相乗効果を図る=SMART CITIES	Incubation施設をSMART CITIESのプラットフォーム利用

ハイブリッド型Incubation/ひょうたんドーム



III期
地域住民施設 (全天候型屋根ドーム)
野球
サッカー
ゲートボール

I期
IT技術者達の『つどいの施設』(Incubation施設)

II期
IT技術者達による教育施設


飲食施設
観光協会
土産店舗

雨天でも、観光客がくつろげる施設(緑地や足湯)

島の駅

Solar farm

女性のプチ事業支援を可能とするMaaS



日中 オンデマンドライドシェア 午前 午後

八丈島のmini資源

リハビリ・介護

病院や職場へ

夕方・夜

ECサイト

地元料理

アイディア創出

地元の味工房

資料提供 八丈町 (0190225) <http://www.yamanashi-npo.com/aiit/>

観光スペース経営 民泊経営

Dチーム構想:

インキュベーション施設開設で多様な人材(高度IT人材、デザイナー、異能人材等)を島へと呼び込み、現状サイクルを良循環へと転換させる



島に仕事が少ない
島経済低迷
人口減少
就業は島外で

インキュベーション施設
ブロックチェーン

島に仕事がある
島経済発展
人口増加
就業は島内で

住民と共にアイデア創出できる環境を提供することにより、創出意欲を促し、新たな住民との共存共栄を図る。
 自然とITと観光の共存を旨とする。

3.3 修了アンケート結果

アンケート結果は、評価平均が満足度 4.3、修了自慢度 4.0、知人推薦度 4.0 と極めて高い一方、起業貢献度は 3.7 に止まっている。また、本プログラムの特徴への満足度は、受講費 4.5、土日と平日夜間開講 4.3 から 4.4、学生間人間関係 4.2、PBL4.1 と高くなっている。一方で、コンピテンシー修得の評価平均は 3.6 と最も低いですが、分布状況を見ると、評価 1 から 2 をつけた受講生は 0 であることから、全受講生がある程度のコンピテンシー獲得に手応えを感じている様子が窺える。次年度以降においても、起業家としてのコンピテンシー獲得に向けたプログラム充実を一層図っていくことが肝要と認識している。

表 9 プログラム受講満足度

	評価平均	回答者数	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
満足度	4.3	25	10	13	2	0	0
起業貢献度	3.7	25	6	9	8	1	1
修了自慢度	4.0	25	6	15	3	0	1
知人推薦度	4.0	25	6	14	4	0	1

表 10 プログラムの特徴に関する満足度アンケート

	評価平均	回答者数	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
PBL	4.1	24	9	11	2	2	0
知識スキル修得	3.8	25	3	14	8	0	0
コンピテンシー獲得	3.6	24	2	10	12	0	0
3段階制	4.0	25	8	9	8	0	0
授業録画視聴	4.0	25	7	10	8	0	0
受講費	4.5	25	14	9	2	0	0
平日夜間開講	4.4	24	11	11	2	0	0
土曜開講	4.4	25	11	13	1	0	0
日曜開講	4.3	25	11	10	4	0	0
8月開講	3.8	25	4	13	6	2	0
図書館	3.8	25	7	10	5	2	1
設備(教室)	4.0	25	7	12	5	0	1
学生間の人間関係	4.2	25	10	11	4	0	0

付 録

平成30(2018)年度

AIIT シニアスタートアップ
プログラム
シラバス(授業概要)

基礎科目(講義・演習型科目)
事例研究型科目
PBL 型科目

《平成 30 年 6 月 18 日掲載版》※

※ 内容に変更が生じることがあります。最新版は随時、更新いたします。



公立大学

産業技術大学院大学

ADVANCED INSTITUTE OF INDUSTRIAL TECHNOLOGY

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	必須	単位	—	学期	夏季
科目群	基礎科目	科目名	東京経済事情			教員名	板倉宏昭
		(英文表記)	Tokyo Economic Situation				

概要	活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。			
目的・狙い	地域としての東京都が抱える課題とは何かを見出すことは、グローバル都市が抱える課題とは何かを理解することに通じる。各界マネジメントのパーズペクティブから捉えられた現状から、受講生各人が起業を考えるに当たり、問題意識を明確化しどのような未来を描き、どのような課題を解決していきたいのかを考えるヒントを得ていくことを目的としている。			
前提知識 (履修条件)	組織におけるマネジメント経験があることが望ましい。			
到達目標	上位到達目標			
	自ら起業することを想定して各界のマネジメントのパーズペクティブを獲得することで、新たな目で東京地域の現状から、課題を設定、その課題解決能力を獲得する。			
	最低到達目標			
	東京都の現状を多角的な視野で理解する。自ら起業することを想定して問題意識を高める。			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義（双方向）	○	講演者とのディスカッションを実施。
		実習・演習（個人）	—	
		実習・演習（グループ）	—	
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習	各講義の前に分野についての予習を行う。また、興味を持った課題についてはインターネットや書籍などで自己学習を進めていく。			
授業の内容	<p>各回、オムニバス方式にてゲスト講師を招聘して実施する。1回(90分)講義につき、ゲスト講義の後、クラスディスカッションを実施する。</p> <p>・担当講師との質疑応答の時間があり、積極的な参加が望まれる。</p> <p>* 講師（オムニバス）の詳細が決定次第、Webにて適宜お知らせします。</p> <p>* 講義内容、日程は講師との調整により変更可能性がある。</p>			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	<p>ゲスト：島田晴雄氏 公立大学法人首都大学東京 理事長</p> <p>講演内容：「激動する世界と日本の針路」</p> <p>この1、2年、世界で起きていることは、将来“この時に世界史が変わった”と記憶されるような事象かもしれません。2016年の英国Brexit、その年末の異様なトランプ米大統領の登場、北朝鮮のミサイルと核兵器騒動、ヨーロッパ諸国の移民排斥の動き等々、第二次大戦後世界が協力して構築してきた平和の維持と経済発展の共有の構図がズタズタになりつつあるこの頃ですが、それが私たちの世界をどう変えていくのか、しっかり見極めて日本の針路を考える必要があります。</p> <p>皆様は、実社会の経験が豊富で熟年になられてさらにパワーアップされようという志の高いビジネス志向の方々ですが、そうであれば尚更、世界で起きている地崩れ的な動きの実像を知り、意味を考え、私達がこれからの選択を誤らないようにしなくてはなりません。この講義が少しでもお役に立てることを祈っています。</p>		

	第 2 回	<p>ゲスト：堀江泰氏 堀江車輛電装株式会社 代表取締役社長</p> <p>講義内容：「中小企業が成す、事業継承と新たな事業への挑戦」</p> <p>この10年間で事業継承や新たな事業展開、M&Aを行ってきた中小企業である当社において、それぞれの取り組みの中での困難や対策、挑戦のポイントなどを、実際の経験をもとにお話しします。</p>
	第 3 回	<p>ゲスト：福田良行氏 東京都中小企業振興公社 理事長、長谷川悠希氏 同公社 事業戦略部創業支援課長</p> <p>講演内容：「東京都における創業支援施策について－東京都中小企業振興公社の支援事例を中心に－」</p>
	第 4 回	<p>ゲスト：歌川真哉氏 八丈島観光協会 副会長</p> <p>講義内容：「離島の現状と産業振興事例（仮）」</p>
	第 5 回	<p>ゲスト：和田京子氏 和田京子不動産株式会社 社長</p> <p>講義内容：「80歳で創業！－オンリーワン経営を目指す取り組み」</p> <p>専業主婦が80歳で創業し著書を発表するほど話題になった和田京子氏をゲストに招聘します。そのオンリーワン経営を目指す取り組みについて、シニアスタートアップ実践について体験的にお話しします。</p>
	第 6 回	<p>ゲスト：萩原智啓氏 株式会社アクアビットスパイラルズ 代表取締役CEO</p> <p>講義内容：「シニアITスタートアップ、Hyperlink of Thingsでモノとサービスを繋ぐ」</p> <p>リアルな世界のモノとインターネット上のあらゆるコンテンツ・サービスをつなぐ「モノのハイパーリンク=Hyperlink of Things®」を活用したビジネスモデルはどのようにして生まれたのか。45歳からのスタートアップチャレンジを続けるメンタリティとは何かも含めて、ファウンダーの目線でお話しします。</p>
	第 7 回	<p>ゲスト：起業家を招聘予定</p>
	第 8 回	<p>ゲスト：地域自治体より招聘予定</p>
教科書・教材	必要に応じて各講師から提示する。	
参考図書	必要に応じて各講師から提示する。	
成績評価	<p>担当教員からのレポート課題100%。</p> <p>講師は最低到達目標を基準に合否によって実施する。</p>	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択	単位	—	学期	夏季
科目群	基礎科目	科目名	経営戦略要論			教員名	原田保
		(英文表記)	Strategic Management				

概要	<p>起業や企業経営などに不可欠な戦略、とりわけ経営戦略について、実践的な視角からの講義が展開される。言い換えれば、本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。また、特に重視される戦略は、日本人が好むコンテンツ主義からの戦略デザインではなく、欧米人が得意とするコンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。</p>			
目的・狙い	<p>たとえ規模が小さくても、グローバルに通用する組織の構築能力と、これらの組織へのマネジメント能力の獲得が指向される。つまり、何かを自らの手でつくりあげるビジネスなどではなく、例えばシステムやオペレーションへの科学的な実践行動によって現出されるプラットフォームに依拠したビジネスモデルの構築能力を保持している起業家や経営者の育成が指向される。併せて、ビジネスデザイン能力を保持するとともに、多様なコミュニケーション能力を保持する起業家や経営者の育成も指向される。</p>			
前提知識 (履修条件)	<p>受講者としては、起業を指向する人やイノベティブなビジネスモデルの構築をコンテキストに依拠して展開する能力の獲得を指向する人が期待されている。</p>			
到達目標	<p>上位到達目標 目指されるべきは、一人、あるいはグループで起業が可能な能力の獲得と、これに有益なネットワーキングが可能になる能力の一定程度の獲得である。</p>			
	<p>最低到達目標 受講者が高度プロフェッショナルとして、いわば自由裁量型の働き手として社会に貢献できる人材を輩出する人材にふさわしい知見や行動力を習得することである。起業に強く求められる有益な知見などを習得することの他、コンテキストデザインを理解し、自分なりの言葉で提案、発表できることを目標とする。</p>			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義（双方向）	○	
		実習・演習（個人）	○	
		実習・演習（グループ）	—	
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習				
授業の内容	<p>まずは講義テーマに依拠しながら、基礎的な能力の獲得を可能にする初歩的な知見の習得が可能になるための導入的な講義が行われる。その後、これを踏まえた受講者によるプレゼンテーションが行われることになり、これを踏まえたディスカッションが行われる。最終的には、自身の起業プランの開示をお願いすることになるのだが、これを受講生が有効な評価をすることも期待されている。また、これに関連する情報や思考についての討議も適宜に展開される。ここは、あくまでも個人ベースの能力の発揮が期待される場になることが期待されている。</p>			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	<p>共通認識を獲得するために原田による導入講義が行われる。戦略論についての全般的な理解を深めることが指向される。とりわけ、コンテキストデザインの重要性が強調される。併せて、コンテキストデザイン手法をマスターすることが指向されることになる。</p>		
	第2回	<p>受講生による起業計画や経営戦略や経営管理に関する考え方などの披露と、これを踏まえたディスカッションが行われる。これらを通じて、どのようなケースにどのようなアプローチがフィットするのかを考えていく。</p>		
	第3回	<p>コンテキストデザインの方法論を事例を踏まえてマスターする。教科書の事例に関する戦略などの討議が、受講生の報告に基づいて行われる。なお、情報の共有化を図るために、受講生は、プレゼン資料を配布することが義務付けられる（以下、同様である）。</p>		

	第4回	第3回と同様である。
	第5回	今後期待ができる都市型ビジネスを捉えたクリエイティブビジネスに関する戦略などの方向性や内容についての考察が行われる。特に、ここでは付加価値の創造を指向したビジネスモデルの独創性に関する考察が行われる。講義の形式は、第3回、第4回と同様である。
	第6回	第5回と同様である。
	第7回	現在の重点課題である少子高齢化、地方の過疎化を捉えた地域ビジネスに関わる戦略デザインに関する考察が行われる。ここでは、スピリチュアリティによる地域化価値発現のための方法論の考察が行われる。講義の形式は、第3回、第4回と同様である（ここでは、報告は希望者のみである）。
	第8回	受講生による、自身のテーマに関する何らかの提言を簡単に報告する。同時に、1ページ1000文字、4ページ程度で、レポートの提出が期待される。なお、これも、情報の共有化のために、資料は全員に共有することが義務付けられる。
教科書・教材	① 原田保・三浦俊彦・高井透編著『コンテキストデザイン戦略』芙蓉書房出版。 ② 原田保編著『クリエイティブビジネス論』学文社。 ③ 原田保・立川丈夫・西田小百合編著『スピリチュアリティによる地域価値発現戦』学文社。	
参考図書	ポーター、並びにバーニーの戦略論。	
成績評価	レポート及び発表100%。評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択	単位	—	学期	夏季
科目群	基礎科目	科目名	マーケティング要論			教員名	江戸克栄
		(英文表記)	Marketing				

概要	現代企業におけるマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識だけではなく、実践的な「分析力」と「創造力」を養う必要がある。本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を習得するだけではなく、演習を通してマーケティングに必要なマーケティング・マインドを養っていく。さらに、現代社会の潮流を分析した上で、今後のマーケティングの中で重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会について考察していく。			
目的・狙い	ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を学習するだけではなく、実践的に現代企業を取り巻く市場環境を理解することができる「分析力」とそれに対応するためのマーケティング戦略を立案できる「創造力」を養うこととする。			
前提知識 (履修条件)	教科書を読んだ上で、章末の演習問題をやっておくこと。			
到達目標	上位到達目標			
	最低到達目標に加えて、現代企業を取り巻く市場環境を理解することができる「分析力」とそれに対応するためのマーケティング戦略を立案できる「創造力」を養うことを到達目標とする。			
	最低到達目標			
	次に挙げる基本的マーケティング知識について理解することを到達目標とする。 ・マーケティングの定義 ・マーケティング・プロセス ・STP (Segmentation, Targeting, Positioning) ・マーケティング・ミックス			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義(双方向)	○	プレゼンテーション・ディスカッション
		実習・演習(個人)	○	マーケティング・ミックスの策定など
		実習・演習(グループ)	—	
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習	教科書章末の演習問題を予習、復習する。			
授業の内容	本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識(マーケティングの歴史、マーケティング・コンセプト、定義、マーケティング・プロセス、市場環境分析、STP、マーケティング・ミックス等)を習得するだけではなく、「分析力」及び「創造力」を養うことを目的とした演習を行う。さらに、近年重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。本授業ではマーケティング理論だけではなく、広範囲の事例研究を通してマーケティングへの理解を深められるようにする。			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	イントロダクション ・マーケティングとは ・マーケティングの登場と歴史 ・マーケティングの主体と対象		
	第2回	マーケティング・コンセプト ・マーケティング・コンセプトとその変遷 ・マーケティングの定義 ・21世紀のマーケティング・コンセプトと顧客志向		
	第3回	市場環境分析とSTP (Segmentation, Targeting, Positioning) ・市場環境分析(マクロ環境とミクロ環境) ・マス・マーケティングとターゲット・マーケティング ・市場細分化と市場ターゲットの確定		

	第 4 回	市場環境分析とSTP (Segmentation, Targeting, Positioning) 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・現代企業を 1 つ選び、その市場環境 (マクロ環境とミクロ環境) を分析する ・市場環境分析をした上で、市場細分化を行い市場ターゲットを確定する。 ・競合の分析を行い、ポジショニングを行う。
	第 5 回	マーケティング・ミックス (1) <ul style="list-style-type: none"> ・商品・サービス政策 (商品概念、ブランド戦略) ・価格政策 (価格戦略と価格政策)
	第 6 回	マーケティング・ミックス (2) <ul style="list-style-type: none"> ・流通チャネル政策 (流通の現状、流通チャネル選択) ・プロモーション政策 (コミュニケーション・ミックス、メディア)
	第 7 回	マーケティング・ミックスの策定【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・現代企業のマーケティング・ミックスについて策定する。 ・市場ターゲットからマーケティング・ミックスまでの一連のマーケティング戦略を策定する。 ・プレゼンテーションを行う。
	第 8 回	今後のマーケティングの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・顧客志向と関係志向のマーケティング ・情報化とグローバル・マーケティングに向けて
教科書・教材	和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2016]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマ	
参考図書	参考文献、参考資料については随時授業中に紹介する。	
成績評価	最終試験 (もしくはレポート・課題) 90%、積極的な授業参加、ディスカッションポイント等 (出席した事実のみでは評価しない) 10%。評価は最低到達目標を基準に合否にて実施する。	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択	単位	—	学期	夏季
科目群	基礎科目	科目名	ファイナンス要論			教員名	三好祐輔
		(英文表記)	Venture Finance				

概要	<p>本講義の目標は、経営者の立場に必要なファイナンスの基礎を修得することである。企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。本講義を通して、企業財務に関する実践的知識・スキルの取得と問題発見と解決・提案力を培えるように支援する。具体的には、財務分析の基礎的手法を学び、財務状況を把握できるようにする。そして、資金制約の中で企業価値最大化の目標を達成するために必要な方法を学ぶと共に外部からの資金調達に関わる基本的な関係について理解を深める。本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスと、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域においてアントレプレナーに有用なもの、双方について学ぶ。</p>			
目的・狙い	<p>企業価値経営に対するファイナンスの目的は、倒産しないこと、資金提供者の要求リターンを満たすことである。企業価値経営とは、企業が経済的付加価値を生み資金提供者をはじめとする企業の利害関係者の満足度を高めることである。どのような経営戦略が企業価値を高めることになるかを考察する。受講者は、企業の財務状態がどのように変化するかを分析し、次の経営戦略の策定が出来るようにする。同時に、資本市場において企業価値がどのように決まるかの基礎について理解を深める。そして企業価値を向上させることが出来ることを目指す。以上を踏まえ、本講義ではアントレプレナー・ファイナンスにおける様々な論点を概観し、基礎的素養を習得することを目的とする。</p>			
前提知識 (履修条件)	経営戦略に関する知識があることが望ましい。			
到達目標	上位到達目標			
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業価値経営をファイナンスの観点から説明できる。 ・企業価値経営に対するファイナンスが果たす役割を具体的に理解する。 ・企業価値経営や事業戦略の策定や実証分析を行うことができる。 			
到達目標	最低到達目標			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイナンスへの関心を深める。 ・企業価値経営とファイナンスに関する基本的な概念を理解し、説明できる。 ・実証分析に関する方法を理解する。 			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義（双方向）	○	
		実習・演習（個人）	○	
		実習・演習（グループ）	—	
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：レジュメ（パワーポイント）を配布する。 ・復習：学んだ部分を中心に、自らが選定した企業について講義で扱った内容を反復する。 			
授業の内容	<p>企業の経営戦略や投資戦略において、リスクに見合ったリターンを獲得するためには、ファイナンスの知識の修得は不可欠である。この領域に関する知識がなければ、過度にリスク回避的になるか、あるいはリスクを負担し過ぎる行動に陥ることになる。本講義では、新規開業企業・ベンチャーやアントレプレナーシップ（企業家活動）が有するファイナンスに関する現代的意義と課題について考察する。そして講義を通じて、具体的な事例を考察する能力や洞察を得るスキルを修得する。</p>			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	ベンチャーファイナンスとは？ スタートアップ支援とエンジェル投資家		
	第2回	ベンチャーキャピタル法とは？		
	第3回	割引キャッシュフロー法とは？		

	第 4 回	WACC（加重平均資本コスト）と企業価値評価
	第 5 回	β と証券市場線
	第 6 回	資金調達契約の経済理論
	第 7 回	アントレプレナー・ファイナンスでの企業価値評価
	第 8 回	コーポレート・ファイナンス理論のベンチャーへの適用
教科書・教材	なし。	
参考図書	講義中に参考文献を指示する。	
成績評価	最終試験 20%、積極的な授業参加、ディスカッションポイント（出席したことのみでは評価しない）20%、レポート 60%。評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選択	単位	—	学期	夏季
科目群	基礎科目	科目名 (英文表記)	ITイノベーション要論			教員名	戸沢義夫

概要	<p>現在の情報社会では、各種の業務で情報システムを活用することが増加している。従来の情報システムの役割はデータ管理と定型業務の自動化による効率化が主であった。しかし、今後はデータ取り込みと情報共有手段としての役割がさらに重要になってくる。最近では情報システムの専門家でなくても容易に業務で活用できるシステム開発可能な仕掛けが提供されるようになった。サイボウズ社のクラウドを活用した Kintone である。日本発のソフトウェアがグローバル展開し海外で使われている例はほとんどないが、Kintone は例外的に海外（主に米国西海岸）で利用され始めている。プログラミング経験が無くても容易に情報システムを構築できるので、それを実際に体験する。</p> <p>身近なテーマを選んで Kintone による情報システム構築を行う以外に、最近話題になっているテーマ（ブロックチェーンや人工知能など）について解説する。</p>			
目的・狙い	<p>日本発のソフトウェア Kintone を理解する。Kintone による情報システムの構築を 4 名程度のグループで実際に行い、Kintone が提供する開発方法を体験する。</p> <p>仮想通貨を実現しているブロックチェーンがどのようなものかを理解し、その特長と脆弱性がどこにあるかについて正しい認識を持つ。</p> <p>人工知能について、今までと現在、未来について正しい判断ができるようになる。</p>			
前提知識 (履修条件)	プログラミング経験は不要だが、キーボード操作できる必要がある。			
到達目標	上位到達目標			
	Kintone を使いこなし、自力で業務に活用できるシステムを構築できるレベル			
到達目標	最低到達目標			
	Kintone がどのようなものかを理解できるレベル			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義（双方向）	○	
		実習・演習（個人）		
		実習・演習（グループ）	○	実際の演習・操作で理解度を高める。
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習	講義時間以外に Kintone を操作してみる グループ作業が多いので、グループウェアを活用したチームディスカッションを推奨する			
授業の内容	<p>1 チームは 4 名程度とし、複数のチームを作る。</p> <p>チームごとに Kintone で構築するシステムのテーマを自分たちで決定する。</p> <p>チームメンバーは手分けして自分が担当する部分を作成する。</p> <p>最期に、チームごとにどのようなシステムを構築したかをデモしながら全員に説明する。</p> <p>講義は適宜行う。</p> <p>レポートは課さない。</p>			
授業の計画	回数	内容		
	第 1 回	<p>授業の目的を解説する。</p> <p>チーム分けを行い、この科目での Kintone の基本的な使い方を説明する。</p> <p>チームごとにチームで構築しようとするシステムのテーマを決める。</p>		
	第 2 回	<p>講義 1</p> <p>第 2 回、第 3 回連続で Kintone によるシステム構築</p>		
	第 3 回	<p>第 2 回、第 3 回連続で Kintone によるシステム構築</p>		

	第4回	第4回、第5回連続で Kintone によるシステム構築
	第5回	第4回、第5回連続で Kintone によるシステム構築
	第6回	講義2 第6回、第7回連続で Kintone によるシステム構築
	第7回	第6回、第7回連続で Kintone によるシステム構築
	第8回	各チームによるデモと説明 講義3
教科書・教材	資料は適宜配布する。	
参考図書	講義時に適宜指示する。	
成績評価	<p>第8回のデモ・説明をチームごとに評価。</p> <p>チーム内での貢献が顕著と判断できる場合、ほとんどチームへの貢献が認められない人はチーム成績に加えて個人貢献分を考慮して個人評価とする。講義の理解度は評価しない。</p> <p>評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。但し、出席回数5回以上（第1回と第8回は出席必須）の者のみ評価。</p>	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	必修	単位	—	学期	3Q
科目群	事例研究型科目	科目名	事業デザイン要論			教員名	戸沢義夫/亀井省吾
		(英文表記)	Business Design				

概要	既存の事業開発・事業改革の事例(ケース)を研究する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを疑似経験する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうなっているか、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らして、どのような課題があるかを明確にする。与えられた事例に対して、チームで検討し、結果をプレゼンテーションする。初回にチーム分けをするので受講者は必ず参加すること。							
目的・狙い	3~4名のチームで与えられた事例(ケース)を多角的に検討する。ケースに書かれた内容を前提とするが、不足している情報はチームで独自に収集する。仮説・検証の考え方が求められる。自分の考え方と他メンバーとの考え方に違いがあった場合に、なぜ自分は他メンバーと違う発想をしたかについて自省することが教育の基本になる。他メンバーがどのように考えているかを聞き出すケーパビリティが重要である。チームとしてひとつの結論に至る必要があるが、チームメンバー全員がその結論に至った理由を同じように説明できることが求められる。良いチーム成果を出すことだけが教育目的ではない。チームメンバー全員が誰でもチーム成果を説明でき、質問に答えられることが要請される。複数のチームが同じケースに対して異なった結論を出している場合は、その違いが生じた理由についてクラス全体で議論する。チームが検討した内容で触れるべきなのに触れていないことならについて教員が指摘し、なぜ検討しなかったのかをクラス全体で議論する。チームとして与えられたケースでの事業(仕事)のやり方を分析し、良い部分と課題を他人にわかるように整理する。オーディエンスを対象に、誰でもわかることを目的としたプレゼンテーションを実施する。分析結果の論理的説明と納得性が極めて重要である。							
前提知識 (履修条件)	企業での仕事の経験、ビジネス経験があるのが望ましい。							
到達目標	上位到達目標							
	ビジネスを分析し、ビジネスモデル、ビジネスオペレーション、ビジネス環境、制約やコンテキスト、組織構造、ポジショニング、ステークホルダー、ビジネス戦略、ビジネス価値、ビジネス課題などを、他人にわかるように独力でまとめ提示できる。							
	最低到達目標							
ビジネスを分析するタスクのチームメンバーとして、チームに貢献できる。								
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点				
	録画・対面混合授業		○	ケースについて、1.ケース配布、2.チーム議論、3.成果発表とクラス議論から成る。1と2、2と3は十分な間隔を置き、チームコミュニケーションを行えるようにする。				
	対面 授業	講義(双方向)		—				
		実習・演習(個人)		—				
		実習・演習(グループ)		○	与えられたケースをチームで集中的に取り組む。			
サテライト開講授業		—						
その他		—						
授業外の学習	与えられたケースについて、情報収集・分析、プレゼンテーションの準備など、チーム活動を行う上で必要な事前に行うべき個人活動を行う。1 ケースについて 8時間以上の授業外活動が必要である。							
授業の内容	1.ケース配布・キックオフ・講義(1コマ) 土曜 6 限 2.講義・チーム議論(6コマ) 休日 3~5 限 3.成果発表とクラス議論(1コマ) 土曜 6 限							
授業の計画	回数	内容						
	第1回	講義・キックオフ・チーム分け ケース配布 土曜 6 限						
	第2回	講義・チーム議論						
	第3回	チーム議論						

	第4回	チーム議論
	第5回	講義・チーム議論
	第6回	チーム議論
	第7回	チーム議論
	第8回	成果発表とクラス議論
教科書・教材	教科書は特に指定しない。 ケースは配布する。	
参考図書	必要に応じて指示する。	
成績評価	ケースのチーム報告(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(45%)、個人活動内容(25%)、他メンバーへのアドバイス(15%)、クラス議論での参画度合(15%)。 評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。但し、出席回数5回以上(第1回と第8回は出席必須)の者のみ評価。	

プログラム	シニアスタートアップ	必修・選択	選抜 必修	単位	—	学期	4Q
科目群	PBL	科目名	シニアスタートアップ特論			教員名	板倉宏昭/亀井省吾
		(英文表記)	Project Based Learning				

概要	基礎科目では、知識とスキルを修得するが、これだけでは事業を開発し起業するには不十分である。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)が不可欠である。当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。
目的・狙い	当科目の履修段階では、以下の知識・スキル・経験等を有していることが想定・期待される。 (1)本プログラム受講前から既に有している知識・スキル・経験 (2)講義・演習型の基礎科目で修得した知識・スキルと対象領域の現状・課題等 (3)事例研究型科目で学んだ事業開発手法 これらの知識・スキル・経験等を活用・駆使して、PBL型のプロジェクト演習を行うことで、起業型の高度人材に期待される経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)を獲得する。
前提知識 (履修条件)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎科目2科目(必修除)を修了していること。 事例研究型授業(事業デザイン要論)を修了していること。 PBLキャンプ(11/23-25、八丈島にて実施)に参加していることが望ましい。
到達目標	上位到達目標 問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を牽引することができ、また関係者を指導することができるレベル。
	最低到達目標 問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を適切に実行できるレベル。
授業外の学習	授業活動に必要なとされる事前学修、またメンバーに分担された活動中の課題作業(調査、プログラミング、ドキュメント作成等)を行う。
授業の内容	原則として、週9時間以上8週間以上の活動を計画的に行う。また、月2回のコアミーティング(教員報告)、週1回の週報(週間活動報告)提出を適切に行うこと。尚、中間時には起業家等によるレビューを実施し、最終成果につき、発表会にてのプレゼンテーションを実施する。
成績評価	チームでのコアミーティング報告(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(50%)、最終成果発表(50%)。評価は合否にて実施する。

平成 30 (2018) 年度

AIIT シニアスタートアップ プログラム

基礎科目(講義・演習型科目)

受講者募集要項

出願受付：平成30年7月2日(月)から7月18日(水)必着
選考試験：平成30年7月28日(土)実施
選考結果：平成30年8月6日(月)郵送(予定)
プログラム開講：平成30年8月25日(土)から



公立大学

産業技術大学院大学

ADVANCED INSTITUTE OF INDUSTRIAL TECHNOLOGY

目 次

1	AIIT シニアスタートアッププログラムの概要	1
2	出願資格	2
3	定員（各選択科目）	2
4	受講期間	2
5	講義時間	3
6	選考手数料及び納入方法	3
7	受講料	3
8	出願（Ⅰ. 事前審査対象の方、Ⅱ. 事前審査対象外の方）	4
9	基礎科目受講にかかる選考	5
10	合否通知	5
11	修了要件	5
12	問い合わせ先	5
	開設科目一覧・日程予定表	6
	支払手順	7
	交通アクセス	8
	(別添)	
	様式1：「出願資格審査申請書」	9
	様式2：「受講願書」	10
	様式3：「科目受講申請書」	11
	試験会場へのアクセス	12

1 AIIT シニアスタートアッププログラムの概要

本プログラムは、起業を目指すシニアの方が起業に必要な知識及びスキルを修得できるよう大学院教育（修士課程）レベルでの学び直しを推進するものです。

本プログラムの実施にあたって、産業技術大学院大学（AIIT）は、東京都及び産業界等の協力を得ています。

本学では、本プログラムにおいて以下の3つのユニットを開講します。それぞれのユニットは関連しており、全てのユニットを続けて受講されることを推奨致します。

基礎科目（講義・演習型科目）では、シニア起業に必要とされる知識及びスキルの修得・定着を目指します。必修科目1科目と選択科目4科目のうち2科目以上を選択して受講してください。

事例研究型科目「事業デザイン要論」では、シニアの起業に必要とされる事業開発手法の修得を目指します。基礎科目（講義・演習型科目）の必修科目「東京経済事情」1科目を受講し、選択科目2科目において合否判定の合格が受講条件となります。

PBL型科目「シニアスタートアップ特論」は、現実の課題に対してグループで取り組み、具体的な作業を行いながら解決に導くことで経験や業務遂行能力を高めていくものです。事例研究型科目「事業デザイン要論」において合否判定の合格が受講条件となります。

※この募集要項は「基礎科目（講義・演習型科目）」の要項であり、「事例研究型科目」、「PBL型科目」は、対象者に改めて配布します。

ユニット名	区分	科目名	コマ数	時間	開講期間
基礎科目 (講義・演習型科目)	【必修科目】	東京経済事情	8コマ	12時間	平成30年8月28日から 平成30年9月29日まで (東京経済事情は、 2月までを予定)
	【選択科目】	経営戦略要論	8コマ	12時間	
	【選択科目】	マーケティング要論	8コマ	12時間	
	【選択科目】	ファイナンス要論	8コマ	12時間	
	【選択科目】	ITイノベーション要論	8コマ	12時間	

※必修科目に加え、選択科目の中から2科目以上受講する必要がある



募集・選考：基礎科目の必修科目1科目を受講し、選択科目2科目において合否判定の合格者の中から選考

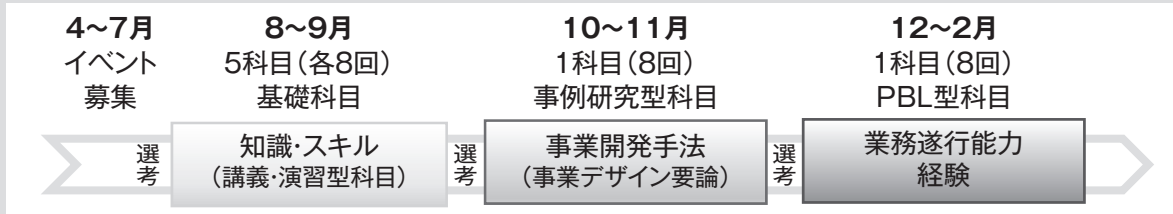
ユニット名	区分	科目名	コマ数	時間	開講期間
事例研究型科目	【必修科目】	事業デザイン要論	8コマ	12時間	平成30年10月13日から 平成30年11月10日まで



募集・選考：事例研究型科目「事業デザイン要論」において合否判定の合格者の中から選考

ユニット名	区分	科目名	コマ数	時間	開講期間
PBL型科目	【必修科目】	シニアスタートアップ特論	8コマ	12時間	平成30年12月9日から 平成31年1月27日まで (2月に報告会を予定)

カリキュラム概要



8～9月 基礎科目（講義・演習型科目） 3科目以上選択（定員各20名）

☆シニア起業に必要とされる知識・スキルの修得・定着

10～11月 事例研究型科目 1科目（定員20名）

☆シニア起業に必要とされる事業開発手法の修得

12～2月 PBL型科目 1科目（定員10名）

☆キャンプ形式のアイデアソン・ハッカソン

☆東京都の現状から問題を設定し、課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

2 出願資格

次の要件（年齢及び学歴等）に該当する者

年齢要件（※1）	学歴等要件（※2）
2019（平成31）年3月31日現在、 50歳以上の者（1969（昭和44）年 4月1日以前に生まれた者）	次の各号のいずれかに該当する者 （1）日本の大学を卒業した者 （2）学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者〔大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者〕 （3）外国において学校教育における16年の課程を修了した者 （4）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者 （5）我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育制度における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者 （6）専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者 （7）文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号） （8）その他本学において、個別の資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（※1）50歳未満の方は、事前にご相談ください。ご年齢と出願状況等により、出願を認めることがあります。

（※2）学歴等要件（3）、（4）、（5）、（8）に該当して出願しようとする方については、出願資格の事前審査を行います。事前審査を通過後、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には選考手数料は不要です。お間違いのないようご注意ください。（詳細は4ページ参照）

3 定員（各選択科目）

20名程度

※基礎科目は、必修科目に加えて、選択科目を最低2科目受講する必要があります。

※選択科目について、3科目以上の受講を希望する方は、出願時に申請することができます。3科目以上の受講は、選考に合格し、定員の状況により3科目、4科目の受講が認められることがあります。なお、受講が認められた場合は、一部の科目を辞退することはできません。

4 受講期間

基礎科目（講義・演習型科目）の予定は以下のとおりです。

オリエンテーション	平成30年8月25日（土）
基礎科目（講義・演習型科目）	平成30年8月28日（火）から平成30年9月29日（土）まで （東京経済事情は2月までを予定）

※受講する選択科目によって講義の開始日・終了日が異なります。（詳細は6ページ参照）

5 講義時間

本プログラムは、平日夜間（6限・7限）、土日に講義を予定しています。

※科目によって講義時間が異なります。（詳細は6ページ参照）

時限	授業時間
1限	9時00分～10時30分
2限	10時40分～12時10分
3限	13時00分～14時30分
4限	14時45分～16時15分
5限	16時30分～18時00分
6限	18時30分～20時00分
7限	20時10分～21時40分

6 選考手数料及び納入方法

【選考手数料】 10,000円

※基礎科目（講義・演習型科目）の出願・選考時のみ必要となります。

※事前審査対象の方は、事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。

【納入方法】 コンビニエンスストア及びクレジットカード等での支払い

選考手数料は、以下（1）または（2）のいずれかの方法で期限内にお支払いください。支払い最終日は、平成30年7月17日（火）23時00分までとなります。（詳細は7ページ参照）

なお、納入された選考手数料は理由の如何にかかわらず返還いたしませんので予めご了承ください。また、お支払いで生じる手数料は出願者の負担となります。

（1）コンビニエンスストアで支払った場合

レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。そして、「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書（様式2）の所定箇所に貼付してください。

（2）クレジットカードで支払った場合（その他のペイジー対応 ATM 等もあり）

支払い後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された〔受付番号〕と〔生年月日〕を入力して【収納証明書】を印刷してください。そして、印刷した【収納証明書】を出願書類に同封してください。

7 受講料

各科目 20,000円（各基礎科目・事例研究型科目・PBL 型科目共通）

※受講料については、選考の結果により受講科目が確定した後、合否通知と同時にお知らせします。また、納入方法についても、合否通知の際に併せてご案内します。

例) 基礎科目（講義・演習型科目）受講料パターン

- ・ 選択科目 2 科目受講した場合：必修科目 1 科目20,000円 + 選択科目 2 科目40,000円 = 60,000円
- ・ 選択科目 3 科目受講した場合：必修科目 1 科目20,000円 + 選択科目 3 科目60,000円 = 80,000円
- ・ 選択科目 4 科目受講した場合：必修科目 1 科目20,000円 + 選択科目 4 科目80,000円 = 100,000円

8 出願

I. 事前審査対象の方

「2 出願資格」の(3)、(4)、(5)、(8)の出願資格により出願しようとする方は、以下のとおり出願資格の事前審査を行いますので、提出期間内に以下の必要書類を提出してください。事前審査対象の方は、事前審査を通過後、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には、選考手数料のお支払いは不要です。お間違いないようご注意ください。

事前審査申請期間	平成30年7月2日(月)から7月9日(月) 必着
事前審査の結果通知	平成30年7月12日(木) 郵送予定
事前審査を通過した方	事前審査を通過した方は出願受付期間内に出願してください。

出願資格	[事前審査申請] 必要書類
(3)、(4)、(5)の者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出願資格審査申請書(様式1) 9ページ参照 ・ 出身大学の卒業証明書又は卒業証書(日本語又は英語訳添付)(発行日不問、コピー可) ※注意：事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。
(8)の者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出願資格審査申請書(様式1) 9ページ参照 ・ 最終学歴出身学校の卒業証明書又は卒業証書(日本語又は英語訳添付)(発行日不問、コピー可) ・ 業務従事歴や研究従事歴等を記した書類(様式任意) ・ 上記業務従事歴等を証明する書類 ※注意：事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。

II. 事前審査対象外の方 (Iでの事前審査を通過した方も含む)

「2 出願資格」の(1)、(2)、(6)、(7)の出願資格により出願しようとする方は、以下の期間に出願書類を提出期間内に必要書類を提出してください。

なお、選考手数料の支払い最終日は、平成30年7月17日(火)23時00分までとなります。ご注意ください。

出願書類提出期間	平成30年7月2日(月)から7月18日(水) 必着
選考試験受験票発送	平成30年7月20日(金) 郵送予定

出願資格	[出願] 必要書類
(1)、(2)、(6)、(7)の者 (事前審査を通過した方も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講願書(様式2) 10ページ参照 ・ 「収納証明書を出願書類の所定台紙に貼付」もしくは「印刷した【収納証明書】を出願書類に同封」7ページ参照 ・ 科目受講申請書(様式3) 11ページ参照 ・ 出身大学の卒業証明書又は大学評価・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書(発行日不問、コピー可)

出願方法 (I・II共通)

必要書類を一括して郵送してください。

郵送先：「12 問い合わせ先」に記載(5ページ参照)

※書留、ゆうパック及びレターパックなど発送から配達までの送達過程の記録が残る形で発送してください。普通郵便で発送した場合の郵便事故については本学で責任を負いません。

※個人情報の取り扱いについて、出願にあたり提出された個人情報は、出願手続き、試験、合否発表、受講手続きなど、本プログラムの運営に関する目的以外には一切使用いたしません。

9 基礎科目受講にかかる選考

- ・ 選考内容：論文試験（予め定められたテーマによる論文試験）
字数は1,000字以上2,000字以内。
論文テーマは、本学ホームページでお知らせします。
（平成30年7月13日（金）公開予定）
掲載ページはこちら https://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/
- ・ 選考日：以下2日間のいずれかの日で受験することができます。
原則①の日程としますが、都合の悪い方は②の日程を選択することができます。受講願書（様式2）に、希望する日程をご記入ください。
① 平成30年7月28日（土）10時40分から12時10分まで
② 平成30年7月27日（金）18時30分から20時00分まで
- ・ 受験票：平成30年7月20日（金）郵送予定
※平成30年7月24日（火）までに通知が届かない場合は、必ず本学までお問い合わせください。
- ・ 会場：産業技術大学院大学（東京都品川区東大井1-10-40）（12ページ参照）

10 合否通知

平成30年8月6日（月）郵送予定

※8月9日（木）までに通知が届かない場合は、必ず本学までお問い合わせください。

11 修了要件

各科目の修了認定については、シラバス掲載の評価に基づき評価を行います。

また、本プログラムにおける修了書交付要件は、「基礎科目（講義・演習型科目）」、「事例研究型科目」、「PBL型科目」の3つのユニットの全ての必修科目に合格し、かつ、「基礎科目（講義・演習型科目）」の選択科目2科目に合格することです。修了書の交付要件を満たした方は、修了判定を経て修了書が交付されます。

12 問い合わせ先

本プログラムに関するお問い合わせ先及び出願書類等の郵送先は以下のとおりです。

産業技術大学院大学OPI企画運営係
AIITシニアスタートアッププログラム担当
〒140-0011 東京都品川区東大井一丁目10番40号
TEL：03-3472-7833 FAX：03-3472-2790
E-Mail：senior-startup@aiit.ac.jp

■開設科目一覧・日程予定表

ユニット名	区分	科目名	時間数	コマ数	回	開講予定日	曜日	時限	時間
オリエンテーション		オリエンテーション	3時間	-	1	8月25日	土	-	14時00分～17時00分
基礎科目 (講義・演習型 科目)	必修	東京経済事情	12時間	8コマ	1	9月5日	水	-	19時00分～20時30分
					2	9月12日	水	-	19時00分～20時30分
					3	10月3日	水	-	19時00分～20時30分
					4	12月5日	水	-	19時00分～20時30分
					5	12月19日	水	-	19時00分～20時30分
					6	現在未定	水	-	19時00分～20時30分
					7	現在未定	水	-	19時00分～20時30分
					8	現在未定	水	-	19時00分～20時30分
	選択	経営戦略要論	12時間	8コマ	1	8月28日	火	6・7時限	18時30分～21時40分
					2	8月29日	水	6・7時限	18時30分～21時40分
					3	8月30日	木	6・7時限	18時30分～21時40分
					4	9月4日	火	6・7時限	18時30分～21時40分
	選択	マーケティング 要論	12時間	8コマ	1	9月14日	金	6・7時限	18時30分～21時40分
					2	9月15日	土	3・4時限	13時00分～16時15分
					3	9月18日	火	6・7時限	18時30分～21時40分
					4	9月19日	水	6・7時限	18時30分～21時40分
	選択	ファイナンス 要論	12時間	8コマ	1	9月1日	土	2・3時限	10時40分～14時30分
					2	9月8日	土	2・3時限	10時40分～14時30分
					3	9月22日	土	4・5時限	14時45分～18時00分
					4	9月29日	土	4・5時限	14時45分～18時00分
選択	ITイノベーション 要論	12時間	8コマ	1	9月24日	月	6時限	18時30分～20時00分	
				2	9月25日	火	6・7時限	18時30分～21時40分	
				3	9月26日	水	6・7時限	18時30分～21時40分	
				4	9月27日	木	6・7時限	18時30分～21時40分	
				5	9月28日	金	6時限	18時30分～20時00分	
事例研究型 科目	必修	事業デザイン 要論	12時間	8コマ	1	10月13日	土	6時限	18時30分～20時00分
					2	10月21日	日	3・4・5時限	13時00分～18時00分
					3	11月4日	日	3・4・5時限	13時00分～18時00分
					4	11月10日	土	6時限	18時30分～20時00分
PBL型科目	必修	シニアスタート アップ特論	12時間	8コマ	1	12月9日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					2	12月23日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					3	1月13日	日	3・4時限	13時00分～16時15分
					4	1月27日	日	3・4時限	13時00分～16時15分

※開講予定は変更することがありますので、最新情報は必ず本学ホームページをご確認ください。

※「東京経済事情」の開講予定日が「現在未定」となっているコマについては、10月から2月の間で開講予定です。

※各科目の授業概要及び講師は、本学ホームページに掲載するシラバスをご確認ください。

掲載ページ https://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/

産業技術大学院大学(AIITシニアスタートアッププログラム) 選考手数料払込方法

1 Webで事前申込み

画面の指示に従って必要事項を入力し、お支払いに必要な番号を取得。



<https://e-shiharai.net/>

本学HP
からも
アクセス
できます！

学校一覧から、産業技術大学院大学 (AIITシニアスタートアッププログラム) を選択してください。

- ※番号取得後に入力ミスに気づいた場合はその番号では支払いを行わず、もう一度入力し直して、新たな番号を取得してお支払いください。支払い期限内に代金を支払わなかった入力情報は、自動的にキャンセルされます。
- ※カード決済完了後の修正・取消はできません。申込みを確定する前に内容をよくご確認ください。

※確定画面に表示される番号をメモしてください。



2 お支払い

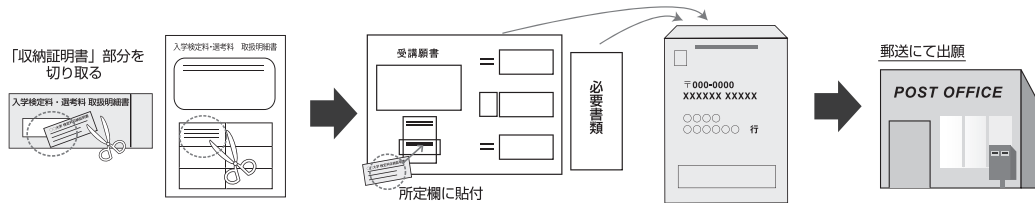
<p>セブン-イレブン 【払込票番号:13ケタ】</p> <p>●レジにて「インターネット支払い」と店員に伝え、印刷した【払込票】を渡すか、【払込票番号】を伝えてお支払いください。</p> <p>マルコピー機は使用しません</p>	<p>サークルK・サンクス 【オンライン決済番号:11ケタ】</p> <p>K stationへ各種支払い</p> <p>11ケタの番号をお持ちの方 チケット受け取りはこちら オンライン決済番号を入力してお支払い 【オンライン決済番号】を入力</p>	<p>デイリーヤマザキ 【オンライン決済番号:11ケタ】</p> <p>レジにて「オンライン決済」と店員に言い、【オンライン決済番号】をお伝えください。</p> <p>セイコーマート 【オンライン決済番号:11ケタ】</p> <p>クラブステーションへ 「インターネット受付 各種代金お支払い」 【オンライン決済番号】を入力</p>	<p>ペイジー対応ATM ゆうちょ、みずほ、三井住友、りそな銀行他</p> <p>「税金・各種料金(ペイジー)」を選択</p> <p>収納機関番号に【58021】と入力 【お客様番号】【確認番号】を入力 支払方法を選択(現金またはキャッシュカード)し、料金をお支払い</p>	<p>VISA, Mastercard, JCB, UnionPay</p> <p>※お支払いされるカードの名義人は、出願者本人でなくても構いません。但し、「基本情報入力」画面では、必ず出願者本人の情報を入力してください。</p>
<p>ローソン・ミニストップ 【お客様番号:11ケタ】【確認番号:4ケタ】</p> <p>Loppiへ各種サービスメニュー 各種代金・インターネット受付 各種代金お支払い マルチペイメントサービス 【お客様番号】【確認番号】入力</p>	<p>ファミリーマート 【お客様番号:11ケタ】【確認番号:4ケタ】</p> <p>Famiポートへ 代金支払い 各種代金お支払い 番号入力画面に進む 【お客様番号】【確認番号】入力</p>	<p>ペイジー対応ネットバンク ゆうちょ、みずほ、三井住友、りそな銀行他</p> <p>ネットバンクにログインし、「税金・各種料金の払込(ペイジー)」をクリック</p> <p>収納機関番号に【58021】と入力 【お客様番号】【確認番号】を入力 画面上で金額を確認し、料金をお支払い(口座引落扱い)</p>	<p>ネット専門銀行 楽天、じぶん、ジャパンネット銀行他</p> <p>お申し込み確定画面から「ネットバンクでの支払い」をクリック</p> <p>支払う銀行を選択して、インターネットバンクにログイン <small>(ペイジー、ブラウザ専用としてお申し込みの際は、E-支払いサイトの「E-支払い専用」からログインしてください。その際には、11ケタのお客様番号が必要です。)</small></p> <p>払込内容を確認し、料金をお支払い(口座引落扱い)</p>	

レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。

支払い完了後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された【受付番号】と【生年月日】を入力して【収納証明書】を印刷してください。
※スマートフォン等でお申込みされた方は、プリンタのある環境をご利用ください。

3 出願

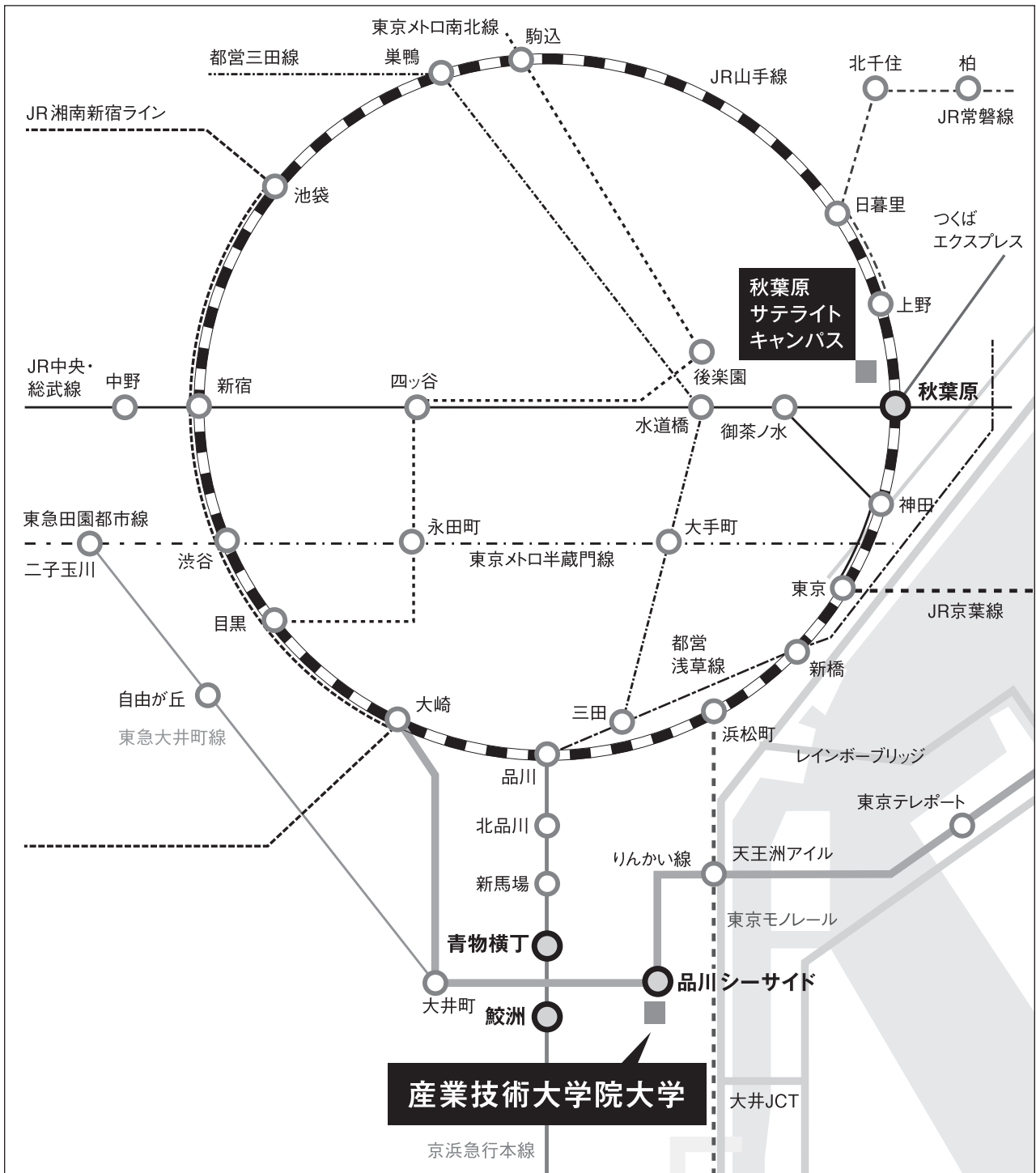
「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書の所定欄に貼る。



▲ 注意事項

- 出願期間を募集要項等でご確認のうえ、締切に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 支払最終日の「Webサイトでの申込み」は23:00までとなります。
- 「選考手数料払込」についてのお問い合わせは、コンビニ店頭ではお答えできません。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。
- 一度お支払いされた選考手数料は返金できません。
- セブン-イレブン、サークルK、サンクス、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート以外でお支払いの方は、支払い完了後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、「収納証明書」を印刷して出願書類に貼付してください。
- 「申込内容照会」で収納証明書が印刷できるのは、セブン-イレブン、サークルK、サンクス、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート以外でお支払いされた場合に限りです。
- 選考手数料の他に事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- 取扱いコンビニ、支払方法は変更になる場合があります。変更された場合は、Webサイトにてご案内いたします。

交通アクセス



No.

※この欄は記入不要です。

**産業技術大学院大学 平成30年度 AIITシニアスタートアッププログラム
出願資格審査申請書**

区分	姓	Middle	名	生年月日	年 月 日	
フリガナ				年 齡	歳 (平成31年3月31日現在)	
氏名				性 別	男・女	
アルファベット				国 籍		
現住所	〒 電話 メールアドレス					
日本国内連絡先 (本人と速やかに連絡が とれるところ)	〒 電話 メールアドレス					
学 歴	区 分	学 校 名		正規の 修業年限	入学及び 卒業年月日	在学 年数
	中等教育 (中学校)			年	～ 年 月 月	年
	中等教育 (高等学校)			年	～ 年 月 月	年
	高等教育 (大学)			年	～ 年 月 月	年
				年	～ 年 月 月	年
	計				年	
職 歴 ・ 研 究 歴	勤務先・研究所等の名称			役職	従事期間	年数
					～ 年 月 月	年
					～ 年 月 月	年
					～ 年 月 月	年
					～ 年 月 月	年
					～ 年 月 月	年
	計					

※事前審査を通過した後、本プログラムに出願することができます。

なお、事前審査申請時には選考手数料は不要です。お間違いないようご注意ください。

※事前審査の結果通知：平成30年7月12日(木)郵送予定。

No.

※この欄は記入不要です。

産業技術大学院大学 平成30年度 AIITシニアスタートアッププログラム 受 講 願 書

写真貼付

縦4cm × 横3cm
上半身、脱帽、正面
向き、3カ月以内で
撮影したもの

■試験希望日

以下2日間のいずれかの日で受験することができます。
原則①の日程としますが、都合の悪い方は②の日程を選択することができます。
希望する日程に☑をご記入ください。

- ① 平成30年7月28日(土) 10時40分から12時10分まで
- ② 平成30年7月27日(金) 18時30分から20時00分まで

ふりがな				性別	男・女	生年月日	年 月 日
氏名							(歳) (平成31年3月31日現在)
現住所	〒 -						
連絡先	電話番号 () 携帯電話 () メールアドレス	日中の 連絡先	名 称 電話番号 () ※左記以外で、本人と速やかに連絡が 取れる電話番号				
学 歴	高校	国立 公立 私立 外国(国名:)	高等学校	年 月 日	卒業		
	大学	国立 公立 私立 外国(国名:)	大学 学科	学部 専攻	年 月 日	卒業 卒見	
	その他	国立 公立 私立 外国(国名:)			年 月 日	卒業 卒見	
職 歴	年 月 ~ 年 月						
	年 月 ~ 年 月						
	年 月 ~ 年 月						
	年 月 ~ 年 月						
現在の 職業	勤務先所在地 勤務先・所属 職 名 (TEL)						

■「収納証明書」部分を切り取り、以下の枠内に貼付してください。

※コンビニエンスストアで支払った場合、レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。そして、「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書(様式2)の所定箇所に貼付してください。
 ※クレジットカードで支払った場合(その他のペイジー対応ATM等もあり)、支払い後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された[受付番号]と[生年月日]を入力して【収納証明書】を印刷してください。そして、印刷した【収納証明書】を出願書類に同封してください。
 ※事前審査対象の方は、事前審査を通過後、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。お間違いないようご注意ください。

(キリトリ線)

No.

※この欄は記入不要です。

**産業技術大学院大学 平成30年度 AIITシニアスタートアッププログラム
科目受講申請書**

ふりがな		生年月日	年 月 日
氏名			(歳) (平成31年3月31日現在)

■受講を希望する選択科目の第1希望～第4希望まで順位を付してください。(第2希望までは必須です。)

※当プログラムは、必修科目に加えて選択科目を最低2科目受講する必要があります。

ユニット名	区分	科目名	受講希望科目
基礎科目 (講義・演習型科目)	【必修科目】	東京経済事情	必 修
	【選択科目】	経営戦略要論	第 希望
	【選択科目】	マーケティング要論	第 希望
	【選択科目】	ファイナンス要論	第 希望
	【選択科目】	ITイノベーション要論	第 希望

■3科目以上受講を希望する場合、☑を記入

※選択科目について、3科目以上の受講を希望する方は、以下の欄に☑を記入してください。選考に合格し、定員の状況により受講が認められることがあります。ただし、3科目以上の受講を希望しない場合は、☑を記入しないでください。

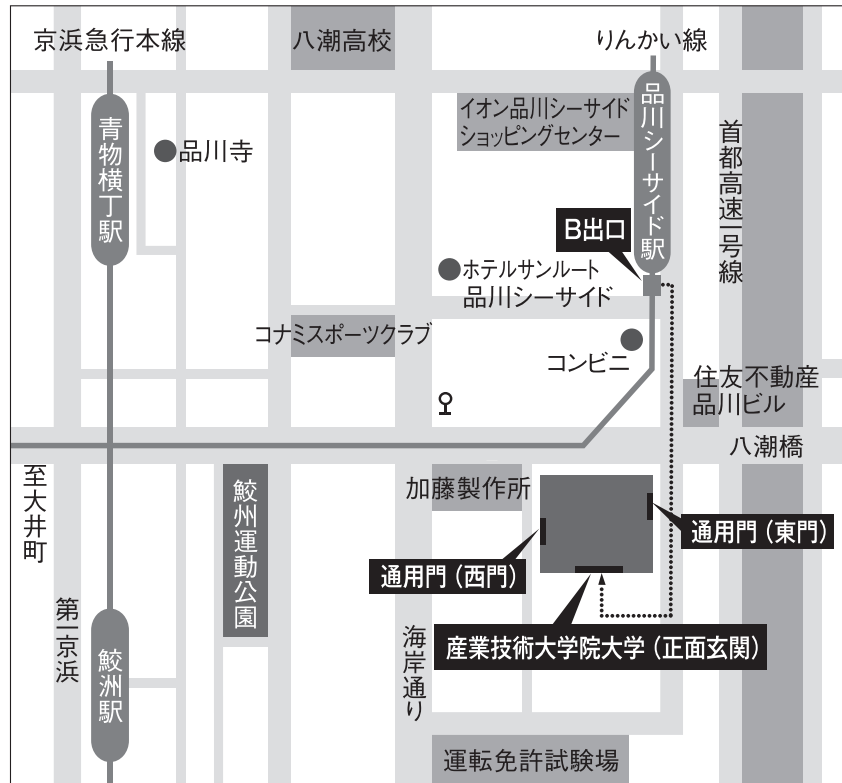
なお、受講が認められた場合は、一部の科目を辞退することはできません。

第3希望の選択科目を受講希望します

第4希望の選択科目を受講希望します

■ 試験会場へのアクセス

品川シーサイドキャンパス



〈住所〉

〒140-0011

東京都品川区東大井一丁目10番40号

■ 最寄り駅

りんかい線「品川シーサイド駅」B出口 徒歩3分

京浜急行線「鮫洲駅」徒歩9分

京浜急行線「青物横丁駅」徒歩10分

JR 京浜東北・根岸線「大井町駅」徒歩18分

■ 都営バス

「都立産業技術高専品川キャンパス前」下車徒歩2分

(品川駅港南口 ↔ 八潮パークタウン [品91系統])

(品川駅高輪口 ↔ 大井競馬場 [品93系統])

(大井町駅東口 ↔ 八潮パークタウン [井92系統])



■問い合わせ先

公立大学法人 首都大学東京
産業技術大学院大学 管理部管理課 OPI 企画運営係

〒140-0011 東京都品川区東大井1-10-40
T E L : 03-3472-7833 F A X : 03-3472-2790
E-Mail : senior-startup@aiit.ac.jp
U R L : http://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/

産業技術大学院大学 平成30年度 AIITシニアスタートアッププログラム
オリエンテーション・基礎科目の実施スケジュール (8月・9月予定)

平成30年6月18日 現在

日	月	火	水	木	金	土
8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	8月24日	8月25日 オリエンテーション 14:00～17:00
8月26日	8月27日	8月28日 経営戦略要論 6, 7限	8月29日 経営戦略要論 6, 7限	8月30日 経営戦略要論 6, 7限	8月31日	9月1日 ファイナンス要論 2, 3限
9月2日	9月3日	9月4日 経営戦略要論 6, 7限	9月5日 東京経済事情① 19:00～20:30	9月6日	9月7日	9月8日 ファイナンス要論 2, 3限
9月9日	9月10日	9月11日	9月12日 東京経済事情② 19:00～20:30	9月13日	9月14日 マーケティング要論 6, 7限	9月15日 マーケティング要論 3, 4限
9月16日	9月17日	9月18日 マーケティング要論 6, 7限	9月19日 マーケティング要論 6, 7限	9月20日	9月21日	9月22日 ファイナンス要論 4, 5限
9月23日	9月24日 ITイノベーション要論 6限	9月25日 ITイノベーション要論 6, 7限	9月26日 ITイノベーション要論 6, 7限	9月27日 ITイノベーション要論 6, 7限	9月28日 ITイノベーション要論 6限	9月29日 ファイナンス要論 4, 5限

時限	授業時間
1限	9時00分～10時30分
2限	10時40分～12時10分
3限	13時00分～14時30分
4限	14時45分～16時15分
5限	16時30分～18時00分
6限	18時30分～20時00分
7限	20時10分～21時40分

※ 開講予定は変更することがありますので、**最新情報は必ず本学ホームページ**をご確認ください。

※ 各科目の授業概要及び講師は、本学ホームページに掲載するシラバスをご確認ください。

掲載ページ https://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/

「シニアの起業」を テーマとする 講演会を開催します

費用
無料

人生100年と言われている昨今、本学では「AIITシニアスタートアッププログラム」の開講を準備中です。開講に先駆けて起業家・創業者として第一線で活躍する有識者等による講演会及びパネルディスカッションを行います。

平成30年

4月28日^土_日
13:30~17:00 (受付13:00)

場所

産業技術大学院大学 433教室
(東京都品川区東大井1-10-40)

[アクセス] りんかい線 「品川シーサイド駅」B出口 徒歩3分
京浜急行線 「鮫洲駅」徒歩9分
京浜急行線 「青物横丁駅」徒歩10分

主催

公立大学
産業技術大学院大学

対象

起業家、創業者を目指す方、学び直しを
考えている方、その他一般社会人など
※どなたでも受講可能です(定員:150名)

お申し込み方法

下記、URL(入力フォーム)からお申し込みください。(先着順)

https://aiit.ac.jp/event_news/view/264

インターネット環境が使用できない方は、FAXでも受付けております

TEL:03-3472-7833 FAX:03-3472-2790

お問い合わせ

産業技術大学院大学 管理部管理課OPI企画運営係



Program

- 13:30 ● 開会挨拶
川田 誠一 産業技術大学院大学 学長
- 13:45 ● 基調講演「スタートアップの実際」
川田 尚吾 氏 投資家/株式会社ディー・エヌ・エー 顧問
- 14:45 ● 特別講演「社会課題を事業に。震災経験が生んだ『遍く』
繋がる新情報サービス『アマネク』」
15:30 ● 今井 武 氏 株式会社アマネク・テレマティクスデザイン 創業者 CEO/
自動車技術会フェロー
- 15:45 ● パネルディスカッション「シニアスタートアップによる地域振興(仮題)」
(登壇者1) 澳 敬夫 氏 農業生産法人 オキオリーブ 代表
(登壇者2) 木村 幹夫 氏 株式会社トーラス 代表取締役
(モデレーター) 板倉 宏昭 産業技術大学院大学 教授
- 16:45 ● 産業技術大学院大学における取組
17:00 ● 板倉 宏昭 産業技術大学院大学 教授

※講演会終了後、プログラムに関する相談ブースを設置する予定です。
※次第・出演者については、一部変更となる場合があります。



川田 尚吾氏

投資家/株式会社ディー・エヌ・エー 顧問

東京都立大学大学院にて博士号(工学)を取得後、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て、1999年に株式会社ディー・エヌ・エーを共同創業し取締役に就任。以降COOとして一連の事業立ち上げをリード。2008年に非常勤取締役、2011年より顧問。現在は日米欧のベンチャー企業への投資、支援を中心に活動



今井 武氏

株式会社アマネク・テレマティクスデザイン 創業者 CEO/
自動車技術会フェロー

1976年本田技研工業株式会社入社。以降、主に情報・ナビゲーション分野の企画開発に携わり、2002年Hondaテレマティクス「インターナビ」を立ち上げ、2012年グローバルテレマティクス部長、役員待遇専事に就任。2015年に定年退職後、同社を設立する。

第2回

AIITシニアスタートアップ プログラム 講演会と説明会

公立大学法人首都大学東京 産業技術大学院大学(学長:川田誠一)では、4月28日に実施した「シニアの起業」をテーマとする講演会に続き、「第2回AIITシニアスタートアッププログラム講演会と説明会」(無料)を開催いたします。

本講演会は、8月開講の「AIITシニアスタートアッププログラム」に先立ち、各界でご活躍の方をお招きし、実施するものです。

場所

産業技術大学院大学 433教室
(東京都品川区東大井1-10-40)

[アクセス] りんかい線 「品川シーサイド駅」B出口 徒歩3分
京浜急行線 「鮫洲駅」徒歩9分
京浜急行線 「青物横丁駅」徒歩10分

主催

公立大学
産業技術大学院大学

対象

シニアの起業に関心のある方、学び直しを考えている方、その他一般社会人など
※どなたでも受講可能です(定員:150名)

お申し込み方法

下記、URL(6/16講演会)からお申し込みください。(先着順)

https://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/

FAXの場合は氏名、連絡先を送付ください。

TEL:03-3472-7833 FAX:03-3472-2790

お問い合わせ

産業技術大学院大学 管理部管理課OPI企画運営係



6月16日 平成30年
13:00~16:00(受付12:30)

参加費
無料

Program

- 13:00 開会挨拶
13:15 川田 誠一 産業技術大学院大学 学長
- (第一部)
- 13:15 基調講演「企業におけるR&Dはどうあるべきか」
14:15 西 美緒 氏 産業技術大学院大学客員教授/元ソニー(株)上席常務
- 14:30 本学修了生による事業事例とパネルディスカッション
15:45 (登壇者) 上村 隆幸 氏 インキュベクス株式会社 代表取締役
(登壇者) 佐々木 胤重 氏 Company Sasaki(ラオス) 代表取締役
(登壇者) 堀 貴史 氏 リープ株式会社 代表取締役
(登壇者) 中川 達生 氏 株式会社ROX 代表取締役
(モデレーター) 海老澤 伸樹 産業技術大学院大学 教授(OPI長)
- (第二部)
- 15:45 AIITシニアスタートアッププログラム説明会
16:00 板倉 宏昭 産業技術大学院大学 教授

※講演会及び説明会終了後、「AIITシニアスタートアッププログラム」に関する相談ブースを設置する予定です。
※次第および出演者については、一部変更となる場合があります。



西 美緒氏

産業技術大学院大学客員教授/
元ソニー(株)上席常務

1966年ソニー(株)入社後、燃料電池、電気音響変換器(スピーカー、ヘッドフォン等)のための材料、リチウムイオン二次電池に関する研究開発に従事。2006年ソニー(株)退社後、国内外のいくつかの企業、研究機関でコンサルタントあるいは顧問としての業務に従事し、現在に至る。

産業技術大学院大学(AIIT*)とは

産業技術大学院大学は、東京都が設置した最先端のITとデザインエンジニアリングでイノベーションを追求する社会人が学びやすい公立の専門職大学院です。高度専門職人材の育成を目的としており、第一線で活躍してきた実務家教員と、研究実績の高い教員との連携による高度な実践的教育を実施し、産業界のアーキテクトを育成します。

*Advanced Institute of Industrial Technology

AIITシニアスタートアッププログラムとは

産業技術大学院大学では、「人生100年時代」を見据えた社会人リカレント教育の充実として、「AIITシニアスタートアッププログラム」を2018年8月に開講しました。

本プログラムでは、起業に挑戦するシニア層や中小企業の後継者のため、起業に必要な知識及びスキルを短期間で修得できるよう、大学院教育(修士課程)レベルのカリキュラムを提供しています。

本プログラムの実施にあたって、産業技術大学院大学は、東京都、産業界等の協力を得ています。

■ アクセス



Startup Hub Tokyo

住所: 東京都千代田区丸の内2-1-1
明治安田生命ビル
TOKYO創業ステーション1F
<https://startuphub.tokyo/access>

■ 電車によるアクセス

- JR をご利用の場合
 - ・JR 東京駅 丸の内南口より 徒歩5分
 - ・JR 有楽町駅 国際フォーラム口より 徒歩5分
- 地下鉄をご利用の場合
 - ・地下鉄千代田線二重橋前駅 3番出口直結

■ お問い合わせ先

公立大学法人首都大学東京 産業技術大学院大学
管理部管理課OPI企画運営係
〒140-0011 東京都品川区東大井1-10-40
Tel: 03-3472-7833 Fax: 03-3472-2790
URL: <https://aiit.ac.jp/>
Email: senior-startup@aiit.ac.jp

平成30(2018)年度 AIITシニアスタートアップ プログラム PBL成果発表会及び修了式

テーマ

「八丈島における地域ビジネスを考える」

入場無料
先着50名

日時: 平成31年3月9日(土) 13:00-17:00
(開場12:00)

場所: Startup Hub Tokyo
(TOKYO創業ステーション1F Event Space)



産技大で本気の学び直し

主催: 産業技術大学院大学

後援: 東京都 / 公益財団法人東京都中小企業振興公社

司会
(産業技術大学院大学特任教授 亀井 省吾)

13:00 - 13:10 ● **開会の挨拶**
(産業技術大学院大学学長 川田 誠一)

13:10 - 13:15 ● **来賓紹介**

13:15 - 13:30 ● **プログラム及び成果発表概要説明**
(産業技術大学院大学教授 板倉 宏昭)

13:30 - 14:00 ● **成果発表Aチーム**
(発表20分、質疑応答等10分)

14:00 - 14:30 ● **成果発表Bチーム**
(発表20分、質疑応答等10分)

14:30 - 14:40 ● **休憩**

14:40 - 15:10 ● **成果発表Cチーム**
(発表20分、質疑応答等10分)

15:10 - 15:40 ● **成果発表Dチーム**
(発表20分、質疑応答等10分)

15:40 - 16:00 ● **休憩**

16:00 - 16:40 ● **講評コメント**

16:40 - 16:50 ● **プログラム受講生修了式**

16:50 - 17:00 ● **閉会の挨拶**
(産業技術大学院大学OPI長 海老澤 伸樹)

テーマ

「八丈島における地域ビジネスを考える」

A チーム

つなげる・つながる八丈島
—未来の子どもたちのために—

B チーム

黄八丈によるコミュニティからはじめる
健康サービス事業

C チーム

元気になる島 八丈島
レモンスパプロジェクト

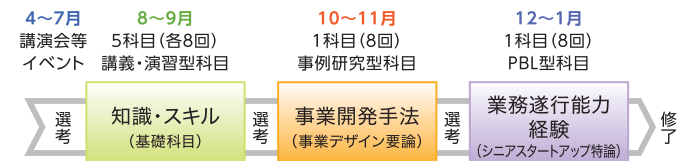
D チーム

スマートシティをキーワードに
八丈島の産業振興策を構想する
—Incubation FacilityとBlockchain技術活用の提案—

平成30(2018)年度開講スケジュール

7月	募集	出願受付・選考試験(論文試験)
8月	プログラム開始	オリエンテーション (8月25日)
9月	基礎科目	「経営戦略要論」* (8月28日～9月4日)
		「マーケティング要論」* (9月14日～9月19日)
		「ファイナンス要論」* (9月1日～9月29日)
		「ITイノベーション要論」* (9月24日～9月28日)
10月	事例研究型科目 PBLキャンプ (アイデアソン形式)	「東京経済事情」* (9月5日～2月6日) ※オムニバス形式
		「事業デザイン要論」* (10月13日～11月10日)
11月		「八丈島PBLキャンプ」 (11月23日～11月25日)
12月	PBL型科目	「シニアスタートアップ特論」* (12月9日～1月27日)
1月		
3月	プログラム終了	PBL成果発表会及び修了式 (3月9日)

*いずれの科目も全8回、計12時間



授業は平日夜間、土日に実施。

産業技術大学院大学

[執筆者]

平成 30(2018)年度 AIIT シニアスタートアップ運営委員会

川田 誠一	産業技術大学院大学学長
板倉 宏昭	産業技術大学院大学教授 本プログラム運営委員会委員長
國澤 好衛	産業技術大学院大学産業技術研究科長 本プログラム運営委員会委員
海老沢 伸樹	産業技術大学院大学教授 OPI 長 本プログラム運営委員会委員
亀井 省吾	産業技術大学院大学特任教授 本プログラム運営委員会委員
榎園 弘	産業技術大学院大学管理部長 本プログラム運営委員会委員

公立大学法人首都大学東京
産業技術大学院大学

平成30年度 AIIT シニアスタートアッププログラム 事業成果報告書

発行:産業技術大学院大学

〒140-0011 東京都品川区東大井 1-10-40

<https://aiit.ac.jp/>

無断複製等禁止の標記について

成果報告書の無断複製等の禁止の標記については、次によるものとする。

本報告書は、東京都連携事業として、産業技術大学院大学が実施した平成30年度「AIITシニアスタートアッププログラム」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には産業技術大学院大学の承認手続きが必要です。